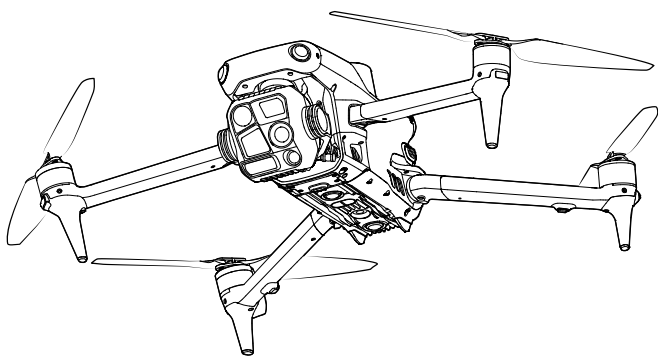


dji MATRICE 4 SERIES

ユーザーマニュアル

v1.0 2025.01





本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。言語版によって相違がある場合には、英語版が優先されます。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

任意のトピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

- ⚠️ ・ この製品の動作環境温度は、-10℃～40℃で、より大きな環境変動に耐えることのできるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55℃～125℃）の条件を満たしていません。製品を適切に操作し、この製品の動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。

凡例

⚠️重要

💡ヒントとコツ

📖参考

ご使用前にお読みください

DJI™は、チュートリアルビデオと次のドキュメントをご用意しています。

1. 『安全ガイドライン』
2. 『クイックスタートガイド』
3. 『ユーザーマニュアル』

すべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、『安全に関するガイドライン』をお読みください。初めて使用する前に、必ず『クイックスタートガイド』を確認し、詳細について『ユーザーマニュアル』を参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか QR コードをスキャンすると、チュートリアルビデオを視聴でき、製品の安全な使用方法を知ることができます：



<https://enterprise.dji.com/matrice-4-series/video>

DJI Assistant 2 のダウンロード

以下のリンクから、DJI ASSISTANT™ 2（Enterprise シリーズ）をダウンロードしてインストールします。

<https://www.dji.com/downloads/softwares/assistant-dji-2-for-matrice>

目次

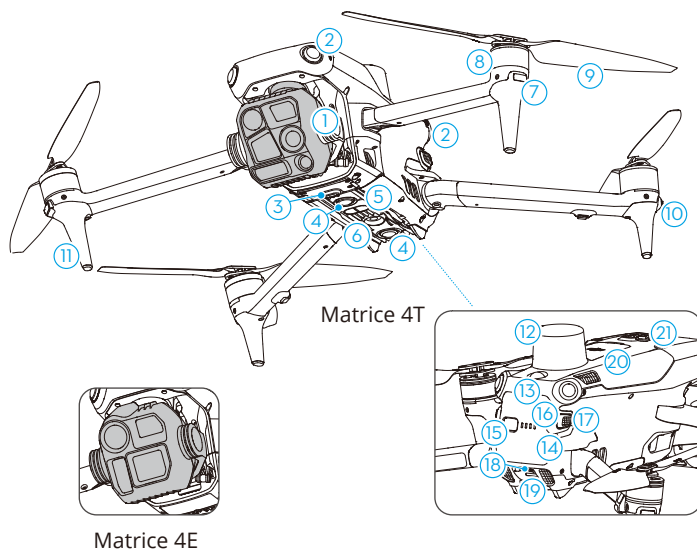
本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
チュートリアルビデオ	3
DJI Assistant 2 のダウンロード	4
1 概要	8
1.1 機体	8
1.2 送信機	9
2 飛行の安全性	11
2.1 責任ある機体操作	11
2.2 飛行制限	11
GEO (Geospatial Environment Online) システム	11
GEO 区域	12
飛行制限	12
緩衝区域	13
GEO 区域のロック解除	14
飛行高度と距離制限	15
2.3 飛行環境の条件	16
3 初めてのご使用にあたって	18
3.1 バッテリーの充電	18
3.2 送信機の準備	18
アンテナの調整	18
3.3 機体の準備	19
3.4 アクティベーション	19
3.5 飛行の基本	20
フライト前チェックリスト	20
モーターの始動／停止	21
モーターの始動	21
モーターの停止	21
飛行中のモーター停止	21
機体の制御	22
4 機体	23
4.1 フライトモード	23
4.2 機体ステータスインジケータ	24
4.3 ビーコン	25
4.4 プロペラ	26

	注記	26
4.5	カメラ	27
	写真と動画の保存とエクスポート	27
4.6	ジンバル	28
	ジンバル角度	28
	ジンバルに関する注記	28
4.7	インテリジェント フライトバッテリー	29
	注記	29
	バッテリーの挿入／取り外し	30
	バッテリー残量の確認	31
	バッテリーの充電	31
	充電ハブの使用	31
	バッテリー残量 LED	33
	バッテリー保護メカニズム	33
4.8	機体 RTK	33
	RTK の有効化／無効化	34
	カスタムネットワーク RTK	34
4.9	Return-to-Home (ホーム帰還)	34
	注記	35
	アドバンスド RTH	37
	開始方法	37
	RTH 手順	38
	RTH 設定	39
	着陸保護	41
4.10	検知システム	42
	注記	43
	ビジョンアシスト	44
4.11	高度操縦支援システム (APAS)	45
	注記	45
	着陸保護	46
4.12	DJI AirSense	46
4.13	拡張ポート	47
5	送信機	48
5.1	バッテリーの充電	48
5.2	カスタムボタン	48
5.3	ボタンの組合せ	49
5.4	タッチ画面の操作	49
5.5	送信機の LED	50
	ステータス LED	50
	バッテリー残量 LED	51
5.6	送信機のアラート	51

5.7	最適な伝送範囲	52
5.8	送信機のリンク	52
5.9	HDMI 設定	53
6	DJI Pilot 2 アプリ	54
6.1	ホーム画面	54
6.2	カメラビュー	55
	トップバー	55
	ナビゲーション表示	56
	ズームカメラビュー	58
	広角カメラビュー	59
	サーマルカメラビュー	60
	レーザー距離測定	62
	プライマリー フライト ディスプレイ	62
7	付録	65
7.1	仕様	65
7.2	ファームウェア更新	65
	DJI Pilot 2 の使用	65
	機体と送信機のファームウェア更新	65
	オフラインでのファームウェア更新	65
	DJI Assistant 2 (Enterprise シリーズ) の使用	65
	機体と送信機のファームウェア更新	65
	お知らせ	66
7.3	フライトレコーダー	66
7.4	強化伝送	67
	ナノ SIM カードの取り付け	67
	DJI セルラードングル 2 の取り付け	68
	強化伝送の使用	69
	セキュリティ戦略	69
	送信機使用上の注意	69
	4G ネットワーク要件	70

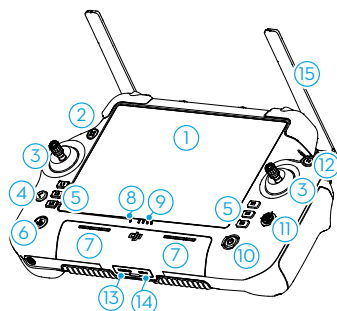
1 概要

1.1 機体



- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. ジンバルとカメラ | 12. GNSS アンテナ |
| 2. 全方向ビジョンシステム | 13. ビーコン |
| 3. 拡張ポート | 14. インテリジェントフライトバッテリー |
| 4. 下方ビジョンシステム | 15. 電源ボタン |
| 5. 3D 赤外線検知システム | 16. バッテリー残量 LED |
| 6. 補助ライト | 17. バッテリーバックル |
| 7. フロント LED | 18. USB-C 補助ポート (E-Port Lite) |
| 8. モーター | 19. microSD カードスロット |
| 9. プロペラ | 20. セルラードングル収納部 |
| 10. 機体ステータスインジケータ | 21. E-Port |
| 11. ランディングギア (アンテナ内蔵) | |

1.2 送信機



1. タッチ画面
2. 接続状態 LED
3. ジョイスティック
4. 戻る／機能ボタン

1 回押すと前の画面に戻ります。2 回押すとホーム画面に戻ります。

戻るボタンと別のボタンを使用して、ボタンの組合せを有効にします。詳しくは、[ボタンの組合せ](#)のセクションを参照してください。

5. L1/L2/L3/R1/R2/R3 ボタン

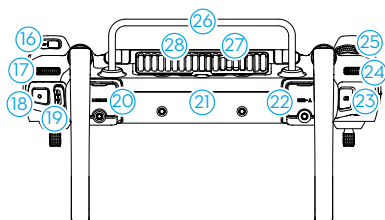
DJI Pilot 2 のカメラビューに移動して、各ボタンの特定の機能を表示します。

6. RTH（ホーム帰還）ボタン

長押しすると、RTH を起動します。再度押すと、RTH はキャンセルされます。

7. マイク
8. ステータス インジケーター
9. バッテリー残量 LED
10. 電源ボタン

ボタンを 1 回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。ボタンを 1 回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。送信機の



電源が入っているときに、1 回押すと、タッチ画面のオン／オフを切り替えられます。

11. 5D ボタン
12. 飛行一時停止ボタン

ボタンを 1 回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います（GNSS またはビジョンシステムが利用可能な場合のみ）。

13. microSD カードスロット
14. USB-C ポート
15. 外部アンテナ

16. C3 カスタムボタン

17. ジンバルダイヤル

18. 録画ボタン

19. フライトモードスイッチ

20. HDMI ポート

21. 内部アンテナ

22. USB-A ポート

USB フラッシュドライブやメモリーカードなどのサードパーティ製機器を挿入することができます。

23. フォーカス／シャッターボタン

ボタンを半押しするとオートフォーカスが作動し、全押しすると写真を撮影します。

24. カメラズームダイヤル

25. カスタマイズ可能な C4 スクロールホイール

26. ハンドル

27. スピーカー

28. 排気口

29. 取付穴（予備）

30. C1/C2 カスタムボタン

31. 背面カバー

32. バッテリー取り外しボタン

33. バッテリー収納部

WB37 インテリジェントバッテリーの取り付けに使用します。

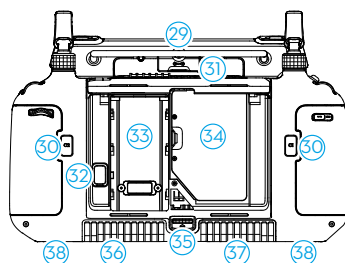
34. セルラードングル収納部

35. 背面カバー取り外しボタン

36. アラーム

37. 吸気口

38. M4 ねじ穴



2 飛行の安全性

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行の練習を行っておくことをお勧めします。以下の飛行要件と制限に従って、飛行に適したエリアを選択してください。飛行中は、現地の法律および規制を順守してください。本製品を安全に使用するために、飛行前に『安全ガイドライン』をお読みください。

2.1 責任ある機体操作

深刻な怪我や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 麻酔、飲酒、服薬などの影響がないこと、めまい、疲労、吐き気などの症状がなく、機体を安全に操作する能力があることを確認してください。
2. 着陸後、まず機体の電源を落としてから送信機の電源を切ります。
3. 建物、人体、動物に危険なペイロードを落下させたり、それらに向けて打ち上げ、発射したりしないでください。人的障害や物的損害が生じるおそれがあります。
4. 墜落した機体、または偶発的な損傷を受けた機体、または状態の悪い機体を使用しないでください。
5. 必ずトレーニングを十分に行い、緊急時または事故が発生した場合の緊急時対応計画を作成してください。
6. 必ず飛行計画を立ててください。機体を無謀に飛行させないでください。
7. カメラを使用するときは、他者のプライバシーを尊重してください。現地のプライバシー法規制と道徳的規準を必ず順守してください。
8. 一般的な個人使用以外の理由で本製品を使用しないでください。
9. 本製品を、スパイ行為、軍事運用、不正捜査など、違法または不適切な目的のために使用しないでください。
10. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫、または他者のプライバシーの侵害や肖像権の侵害など法的権利を侵す行為に使用しないでください。
11. 他人の私有地に侵入しないでください。

2.2 飛行制限

GEO (Geospatial Environment Online) システム

DJI GEO (Geospatial Environment Online) システムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供する、制限空域での UAV の飛行を防ぐグローバル情報システムです。例外的な状況では、制限エリアのロック解除を行い、飛行を許可することができます。飛行

行の前に、目的の飛行地域の現在の制限レベルに基づいてロック解除の要請を提出する必要があります。GEO システムは、現地の法律や規制に完全に準拠していない場合があります。ご自身の飛行の安全性に責任を負い、制限エリアでのロック解除を要求する前に、関連する法的および規制要件について地方自治体に相談する必要があります。GEO システムについての詳細は、次のサイト <https://fly-safe.dji.com> をご覧ください。

GEO 区域

DJI GEO システムは、安全な飛行場所を指定し、個々の飛行のリスクレベルと安全に関する注意、および制限空域情報を提供します。すべての飛行制限エリアは GEO 区域と呼ばれ、さらに制限区域、承認区域、警告区域、強化警告区域、高度制限区域に分けられます。DJI Pilot 2 では、これらの情報をリアルタイムで表示できます。GEO 区域には、空港、大規模なイベントの会場、公衆衛生上の緊急事態（山火事など）が発生した地域、原子力発電所、刑務所、国有財産、軍事施設がありますが、これらに限定されません。デフォルトでは、GEO システムは、安全またはセキュリティ上の懸念につながる可能性のある区域への離陸または区域内での飛行を制限します。世界中の GEO 区域に関する包括的な情報を含む GEO 区域マップは、DJI 公式サイトにあります：<https://fly-safe.dji.com/nfz/nfz-query>。

飛行制限

次のセクションでは、上記の GEO 区域での飛行制限について詳しく説明します。

制限区域（赤色）

UAV の制限区域での飛行は禁止されています。制限区域での飛行許可を取得している場合は、<https://fly-safe.dji.com> をご覧いただくか、または flysafe@dji.com に連絡して区域のロックを解除してください。

適用事例

離陸：制限区域では、機体のモーターを始動することはできません。

飛行中：機体が制限区域内を飛行すると、DJI Pilot 2 では 100 秒のカウントダウンを開始します。カウントダウンが終了すると、機体は半自動下降モードで直ちに着陸し、着陸後にモーターをオフにします。

飛行中：制限区域の境界に近づくと、機体は自動的に減速してホバリングします。

承認区域（青色）

機体は、飛行許可を取得していない限り、承認区域で離陸することはできません。

適用事例

離陸：承認区域では、機体のモーターを始動することはできません。承認区域を飛行するには、DJI により認証済の電話番号で登録されたロック解除申請を送信する必要があります。

飛行中：機体が承認区域内を飛行すると、DJI Pilot 2 では 100 秒のカウントダウンを開始します。カウントダウンが終了すると、機体は半自動下降モードで直ちに着陸し、着陸後にモーターをオフにします。

警告区域（黄色）

機体が警告区域内を飛行すると、警告が表示されます。

適用事例

機体は区域内を飛行できますが、ユーザーは警告を理解しておく必要があります。

強化警告区域（オレンジ色）

機体が強化警告区域を飛行すると、警告が表示され、飛行経路の確認をユーザーに促します。

適用事例

警告が確認されると、機体は飛行を継続できます。

高度制限区域（灰色）

高度制限区域内を飛行する場合、機体の高度が制限されます。

適用事例

GNSS 信号が強い場合、機体は高度制限を超えて飛行することはできません。飛行中：GNSS 信号が弱から強に変わると、機体が高度制限を超えたときに、DJI Pilot 2 では 100 秒のカウントダウンを開始します。カウントダウンが終了すると、機体は高度制限を下回る高度でホバリングします。

高度制限区域の境界に近づき、GNSS 信号が強い場合、機体は自動的に減速し、高度制限を超えている場合はホバリングします。

-
- 💡 • 半自動下降：下降中および着陸中に、スロットルスティックコマンドと RTH ボタン以外の全スティックコマンドを使用できます。着陸後、機体のモーターは自動的にオフになります。半自動下降を行う前には、機体を安全な場所へ移動させてください。
-

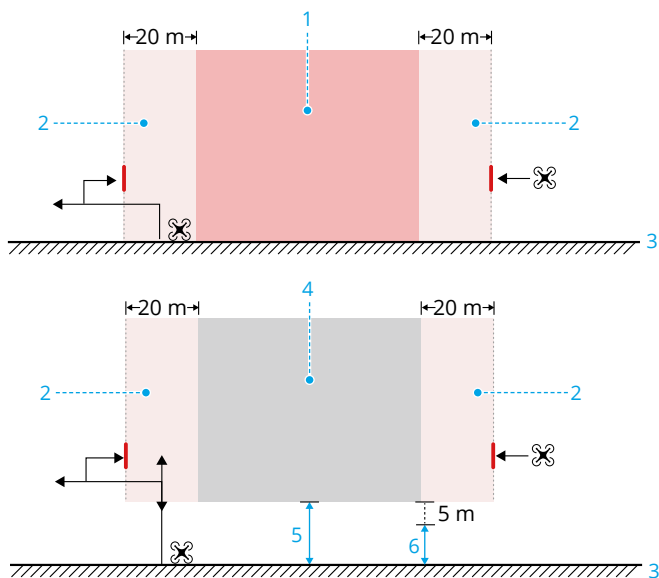
緩衝区域

制限区域／承認区域の緩衝区域

制限区域や承認区域に機体が誤って飛行することを防止するため、GEO システムは各制限区域と承認区域の外側に約 20 メートル幅の緩衝区域を作成します。以下の図で示されており、機体が緩衝区域内部に入ると、機体はその場で離陸／着陸するか、制限区域や承認区域と反対の方向にのみ飛行できます。そしてロック解除申請が承認されない限り制限区域や承認区域の方向へ飛行することはできません。機体が緩衝区域を離れた後は、機体は緩衝区域に戻って飛行することができません。

高度制限区域の緩衝区域

各高度制限区域の外側には約 20 メートル幅の緩衝区域が設けられます。以下の図で示されているとおり、水平方向で高度制限区域の緩衝区域に接近したときには、機体は徐々に飛行速度を落とし緩衝区域の外側でホバリングします。緩衝区域を下から垂直方向に接近したときには、機体は高度を上げ下げするか高度制限区域と反対方向に飛行することができますが、高度制限区域の方向に飛行することはできません。機体が緩衝区域を離れた後は、機体は緩衝区域に水平方向から戻って飛行することができません。



- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 制限区域／承認区域 | 4. 高度制限区域 |
| 2. 緩衝区域 | 5. 高度制限 |
| 3. 地面 | 6. 飛行高度 |

GEO 区域のロック解除

セルフロック解除は承認区域でのロック解除を目的としています。セルフロック解除を完了するには、安全飛行に関する DJI Fly Safe のウェブサイト <https://fly-safe.dji.com> からロック解除申請を送信する必要があります。ロック解除申請が認証されると、DJI Pilot 2 アプリからライセンスロック解除を同期できます。該当区域のロックを解除するには、認証された承認区域内で機体を直接離陸または飛行して、DJI Pilot 2 のプロンプトに従って該当区域のロックを解除します。

カスタムロック解除は、特別な要件を持つユーザー向けに用意されています。ユーザーによって定義されたカスタム飛行エリアを指定し、さまざまなユーザーのニーズにあわせた個別の飛

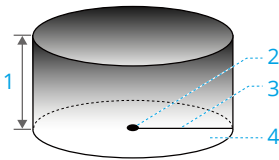
行許可書を提供します。このロック解除オプションは、すべての国と地域で利用でき、安全飛行に関する DJI Fly Safe ウェブサイト <https://fly-safe.dji.com> から申請できます。

モバイル機器でのロック解除：DJI Pilot 2 アプリを起動し、ホーム画面で[GEO 区域マップ]をタップします。ライセンスロック解除のリストを表示し、①をタップしてライセンスロック解除の詳細を表示します。ライセンスロック解除へのリンクと QR コードが表示されます。モバイル機器を使用して QR コードをスキャンし、モバイル機器から直接ロック解除を申請します。

- ⚠️ • 飛行の安全を確保するため、機体はロック解除区域に入った後、その区域から外に出ることはできません。ホームポイントがロック解除区域外にある場合、機体はホームに帰還できません。

飛行高度と距離制限

最大高度は機体の飛行高度を制限し、最大距離は機体のホームポイント周辺の飛行半径を制限します。飛行安全性向上のために、DJI Pilot 2 アプリでこれらの制限を変更できます。



1. 最大高度
2. ホームポイント（水平位置）
3. 最大距離
4. 離陸時の機体の高度

強い GNSS 信号

	飛行制限	DJI Pilot 2 アプリでのプロンプト
最大高度	機体の高度は、DJI Pilot 2 で設定された値を超えることはできません。	最大飛行高度に到達
最大距離	機体からホームポイントまでの直線距離は、DJI Pilot 2 で設定された最大飛行距離を超えることはできません。	最大飛行距離に到達しました。

弱い GNSS 信号

	飛行制限	DJI Pilot 2 アプリでのプロンプト
最大高度	- 十分に明るい場合、高度は離陸地点から 60 m の高さに制限されます。 - 明るさが不十分で 3D 赤外線検知システムが機能している場合、高度は地表 3 m の高度に制限されます。 - 明るさが不十分で 3D 赤外線検知システムが機能していない場合、高度は離陸地点から 60 m の高さに制限されます。	最大飛行高度に到達。
最大距離	制限なし	

-  • 機体の電源を入れるたびに、GNSS 信号が強くなっている限り (GNSS 信号強度 ≥ 2)、高度制限は自動的に解除され、その後 GNSS 信号が弱くても制限は有効になりません。
- 機体が慣性によって設定された飛行範囲を超えて飛行した場合、機体を操縦することはできますが、それ以上遠くに飛ばすことはできません。

2.3 飛行環境の条件

1. 強風、雪、雨、霧などの悪天候での飛行は避けてください。
2. 飛行は周囲が開けた場所でのみ行ってください。高い建物や巨大な金属製の建造物は、機体に搭載されているコンパスや GNSS システムの精度に影響を及ぼす場合があります。離陸後、飛行を継続する前に、ホームポイントが更新されたという音声プロンプトの通知があったことを確認してください。機体が建物の近くで離陸した場合、ホームポイントの精度は保証されません。この場合、自動 RTH 中、機体の現在位置に細心の注意を払ってください。機体がホームポイントに接近したら、自動 RTH をキャンセルし、機体を手動でコントロールして、適切な場所に機体を着陸させることを推奨します。
3. 機体は、目視内 (VLOS) でのみ飛行させてください。GNSS 信号を遮る山や木を避けて飛行してください。目視外飛行 (BVLOS) は、期待の性能、操縦者の知識と技能、運航の安全管理が、BVLOS に関する現地の規制に適合している場合に限り、実施することができます。障害物、人混み、樹木、水域を避けてください。安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、鉄道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くでは、現地の規則による許可や承認がない限り、機体を飛行させないでください。

4. 夜間飛行にはビーコンと底部補助ライトが有効になっていることを確認して、安全性を確保してください。（夜間飛行に関しては、ご利用になる国・地域の法律と規制に必ず従ってください）
5. 高い高度で飛行する場合、機体とそのバッテリーの性能は制限されます。慎重に飛行してください。認可を受けた高度を超えて飛行しないでください。
6. 機体の制動距離は、飛行高度の影響を受けます。高度が高いほど、制動距離も長くなります。高高度で飛行する際は、十分な制動距離を確保し、飛行の安全を確保してください。
7. 南極圏、北極圏で機体の GNSS を使用することはできません。代わりにビジョンシステムを使用してください。
8. 車、船、飛行機などの動いている物体から離陸させないでください。
9. 単色（全体が同一色）の表面や、車の屋根など反射の強い表面から離陸させないでください。
10. 砂漠や砂浜から離陸する際は、機体に砂が入らないように気を付けてください。
11. 鳥の群れ付近で機体を操作しないでください。

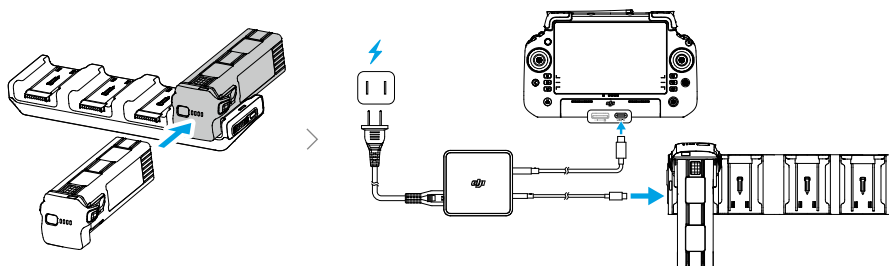
3 初めてのご使用にあたって

リンクをクリックするか、QR コードをスキャンしてチュートリアルビデオを視聴してください。



<https://enterprise.dji.com/matrice-4-series/video>

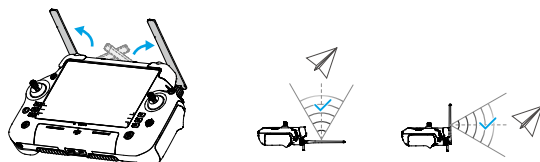
3.1 バッテリーの充電



⚠️ • 初めて使用する前に、送信機を充電して、内部バッテリーをアクティベーションしてください。

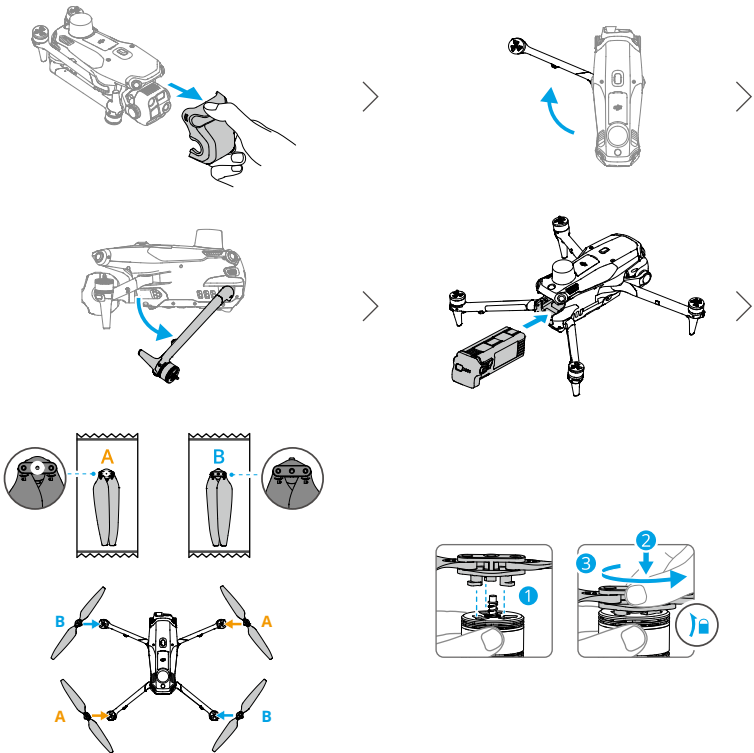
3.2 送信機の準備

アンテナの調整



3.3 機体の準備

1. カメラからジンバルプロテクターを取り外す。
2. フロントアームを展開する。
3. リアアームを展開する。
4. インテリジェント フライトバッテリーの取り付け。
5. プロペラの取り付け位置をモーターに合わせる。カチッという音がして固定されるまで、プロペラを押し下げて回転させる。



3.4 アクティベーション

初めて使用する前に、機体と送信機をアクティベーションする必要があります。電源ボタンを1回押し、次に長押しして機器の電源を入れます。画面の指示に従って、アクティベーション

します。アクティベーション中、送信機がインターネットに接続できることを確認してください。

3.5 飛行の基本

フライト前チェックリスト

1. 送信機と機体のバッテリーがフル充電されていること、インテリジェント フライトバッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認し、バッテリーのバックルが両方とも外れていることを確認します。
2. 機体内部や構成部品内に異物（水、オイル、土、砂など）がないことを確認します。機体の通気口、カメラの冷却穴、モーターの通気口が塞がれていないことを確認します。E-Port などのポートは、使用していない場合、しっかりと閉じておく必要があります。
3. プロペラが同じモデルであり、しっかりと取り付けられていることを確認します。モーターやプロペラに損傷や変形がなく、モーターとプロペラおよびその周辺に異物がなく、プロペラブレードとアームが展開されていることを確認します。
4. ビジョンシステムのレンズ、カメラ、赤外線センサーのガラス、補助ライトがきれいで、ステッカーが貼られていない状態で、遮るものが他にないことを確認します。
5. 機体の電源を入れる前に、必ずジンバル プロテクターを取り外してください。
6. 送信機のアンテナが適切な位置に調整されていることを確認します。
7. 全ての機器および DJI Pilot 2 のファームウェアが最新バージョンに更新されていることを確認してください。
8. 機体と送信機の電源を入れ、フライトモードスイッチを N モードに切り替えます。送信機のステータス LED と機体のバッテリー残量インジケーターが緑色に点灯していることを確認します。これにより、機体と送信機がリンクされ、送信機が機体の操縦を行えるようになったことを示しています。
9. 飛行エリアが UAV の承認区域内で、飛行条件が機体の飛行に適していることを確認します。機体を開けた平らな地面に置きます。障害物、建物、森林が周辺に存在しないことを確認し、機体が操縦者から 5 m 離れていることを確認します。機体の後方が操縦者のほうに向くように置いてください。
10. 飛行安全性の確保のため、DJI Pilot 2 のフライトビューに入り、フライト前チェックリスト上のパラメーターを確認します。
11. DJI Pilot 2 が適切に起動し、機体の操作をアシストすることを確認します。DJI Pilot 2 アプリによって記録された飛行データがない場合、機体の紛失など特定の状況下で、DJI は、アフターサービスの提供や、責任を負うことができない場合があります。
12. 複数の機体を同時に操作している場合、空中での衝突を避けるために空域を分けて飛行させてください。

モーターの始動／停止

モーターの始動

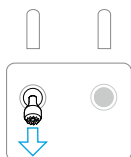
以下に示すように、コンビネーション スティック コマンド（CSC）のいずれかを実行して、モーターを始動させます。モーターの回転が始まったら、両方のスティックを同時に放します。



モーターの停止

以下の 2 つの方法でモーターを停止できます。

方法 1：機体が着陸したら、モーターが停止するまで、スロットルスティックを下方に倒し続けます。



方法 2：機体が着陸したら、以下に示すように、モーターが停止するまで、いずれかの CSC を実行します。



飛行中のモーター停止

⚠️ • 飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

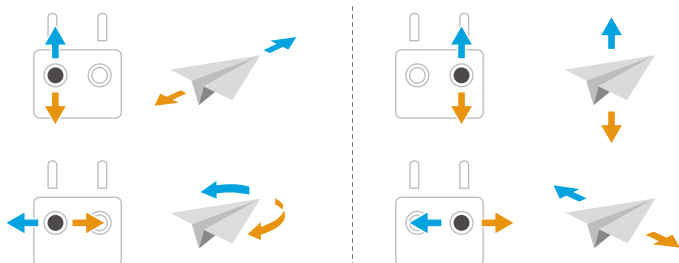
コンビネーション スティック コマンド(CSC)を使用すると、フライトコントローラがフライト中に重大なエラーを検知したときに緊急モーター停止を実行できます。

機体の制御

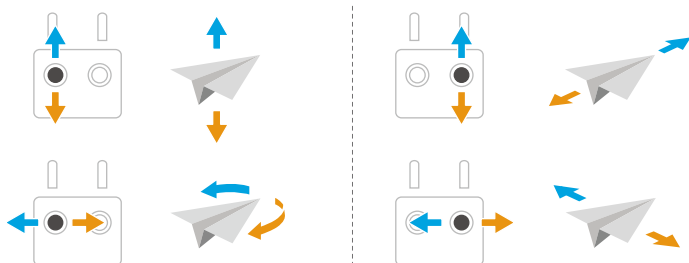
送信機の操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。以下に示すように、操作スティックは、モード 1、モード 2、モード 3 で操作できます。

送信機のデフォルトの制御モードは、モード 2 です。本マニュアルでは、操作スティックの使用方法を説明するために例としてモード 2 を使用しています。スティックが中央位置から離れるほど、機体の移動速度が速くなります。

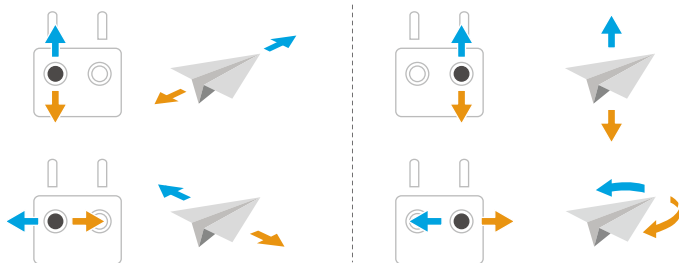
モード 1



モード 2



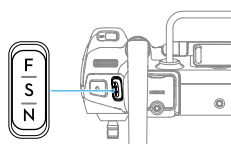
モード 3



4 機体

4.1 フライトモード

機体は以下のフライトモードに対応しており、送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードを切り替えることができます。



位置	フライトモード
F	機能モード
S	スポーツモード
N	ノーマルモード

ノーマルモード

ノーマルモードは、ほとんどの飛行シナリオに適しています。機体は正確にホバリングし、安定飛行し、インテリジェントフライトモードを使用することができます。障害物検知が有効な場合、ビジョンシステムを使用して障害物を回避することもできます。

スポーツモード

機体の最高水平飛行速度は、ノーマルモードより速くなります。スポーツモードでは障害物検知が無効になることに注意してください。

機能モード

機能モードは、DJI Pilot 2 で T モード（トライポッドモード）または A モード（ATTI モード）に設定できます。T モードは、ノーマルモードに基づいています。機体を制御しやすくするために、飛行速度は制限されています。ATTI モードは、慎重に使用する必要があります。

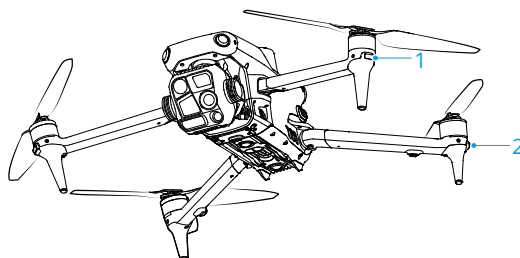
ビジョンシステムが利用できないか無効になっている場合、かつ GNSS 信号が弱い場合、コンパスが干渉を受けている場合、機体は自動的に姿勢モード（ATTI モード）に切り替わります。ATTI モードでは、機体は周囲環境の影響をより受けやすくなります。風などの環境要因によって機体の水平ドリフトを引き起こすことがあり、狭いスペースを飛行している際には特に危険を招くおそれがあります。機体は定位置でホバリングしたり自動的にブレーキをかけたりすることができないため、操縦者は事故を避けるためにできるだけ早く機体を着陸させる必要があります。

EU 地域で機体を飛行させる場合、送信機上でフライトモードを F（T モード）に切り替えると、機体は低速モードになります。低速モードでは、ノーマルモードに基づいて水平方向の最大飛行速度を 2.8 m/s に制限されますが、上昇速度と下降速度に制限はありません。

- ⚠ • 各フライトモードでの機体の動作を十分に理解していない場合は、ノーマルモードから他のモードに切り替えしないでください。ノーマルモードから他のモードに切り替える前に、DJI Pilot 2 の [マルチフライトモード] をオンにしてください。
- ⚠ • ビジョンシステムはスポーツモードでは無効になります。これは、機体がルート上の障害物を自動的に検知できないということです。周囲の環境に注意を払い、障害物を避けて機体を制御する必要があります。
- スポーツモードでは、機体の最高飛行速度と制動距離が著しく増加します。無風状態で飛行する場合は、飛行の安全を確保するために十分な制動距離を維持するようにしてください。
- 無風状態で機体がスポーツモードやノーマルモードで上昇または下降するときは、飛行の安全を確保するために、十分な垂直制動距離を維持するようにしてください。
- スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かしただけでも、機体は長距離を移動します。飛行中は必ず、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。

4.2 機体ステータスインジケータ

この機体にはフロント LED と機体ステータスインジケータが付いています。



1. フロント LED

機体の電源は入っているがモーターが作動していない場合、フロント LED が赤色に点灯し、機体の向きを表示します。

2. 機体ステータスインジケータ

機体の電源は入っているがモーターが作動していない場合、機体ステータスインジケータは機体の現在の状態を表示します。

機体ステータスインジケータの説明

正常の状態

 赤色と黄色と緑色が交互に点滅
電源がオンになり、自己診断テストを実行

 × 4 黄色に 4 回点滅
ウォームアップ中

 緑色にゆっくり点滅
GNSS が有効

 × 2 緑色に 2 回点滅を繰り返す
ビジョンシステムが有効

 黄色にゆっくり点滅
GNSS およびビジョンシステムが無効（ATTI モードが有効）

警告の状態

 黄色にすばやく点滅
送信機信号消失

 赤色にゆっくり点滅
離陸不可（例：ローバッテリーなど）^[1]

 赤色にすばやく点滅
重度のローバッテリー

 — 赤色点灯
重大なエラー

 赤色と黄色に交互に点滅
コンパス キャリブレーションが必要

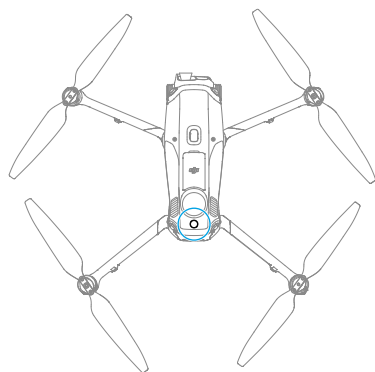
[1] ステータスインジケーターがゆっくりと赤色点滅している間に機体が離陸できない場合は、DJI Pilot 2 に警告プロンプトが表示されます。

モーターが始動すると、フロント LED が赤色と緑色に交互に点滅し、機体ステータスインジケーターが緑色に点滅します。

- ⚠ ・ 照度要件は地域によって異なります。現地の法律および規制を順守してください。
- ・ DJI Pilot 2 でフロント LED が自動に設定されている場合、より優れた映像を撮影するために、写真や動画の撮影時にフロント LED が自動的にオフになります。

4.3 ビーコン

機体のビーコンにより、夜間飛行時の機体位置を把握できます。DJI Pilot 2 でビーコンを手動でオン／オフに設定できます。



-
- ⚠️ • 目を傷つけないように、使用中のビーコンを直視しないでください。
-

4.4 プロペラ

機体はデフォルトで標準プロペラを使用しています^[1]。騒音を低減したり、EU の規制要件に準拠したりするには、低騒音プロペラを使用します。

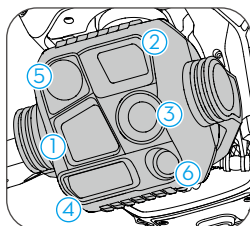
[1] この機体は、EU 地域ではデフォルトで低騒音プロペラを使用しています。

注記

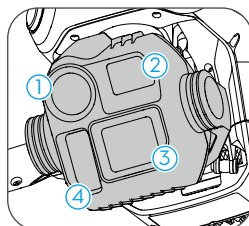
-
- ⚠️ • プロペラブレードは先端が鋭くなっています。けがやプロペラの変形を避けるために、注意して扱ってください
- 飛行前に、毎回プロペラとモーターが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。
 - DJI 公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
 - プロペラは消耗品です。必要に応じて追加のプロペラを購入してください。
 - 各飛行前に、すべてのプロペラが良好な状態であることを確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。プロペラに異物が付着している場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。
 - 怪我をしないよう、回転中のプロペラやモーターから離れてください。
 - プロペラの破損を防ぐため、輸送時や保管時は、機体を適切に配置してください。プロペラをひねったり折り曲げたりしないでください。プロペラが損傷している場合、飛行性能が影響を受ける可能性があります。

- モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに機体を着陸させてください。
- モーターを改造しないでください。
- 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体の一部が接触したりしないようにしてください。
- モーターまたは機体の通気口を塞がないでください。
- 電源を入れた時、ESC の動作音に異常がないことを確認してください。

4.5 カメラ



DJI Matrice 4T



DJI Matrice 4E

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. 望遠カメラ | 4. レーザー距離計 |
| 2. 中望遠カメラ | 5. 赤外線サーマルカメラ |
| 3. 広角カメラ | 6. NIR 補助ライト |

- ⚠** • 赤外線センサーの特性上、センサー焼け防止機能が作動する前に、赤外線センサーが焼けてしまう場合があります。赤外線カメラレンズを高エネルギー源（太陽、溶岩、レーザービームなど）に向けないでください。カメラのセンサー焼けが生じ、回復不能な損傷につながる場合があります。
- 使用中と保管中、温度と湿度がカメラに適したものであることを確認してください。
 - レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷や画質の低下を防いでください。
 - カメラの通気口を塞がないでください。熱が発生して、負傷したり、機器が損傷したりするおそれがあります。

写真と動画の保存とエクスポート

機体は、microSD カードを使用して写真や動画を保存することができます。推奨 microSD カードに関しては、仕様を参照してください。

機体から microSD カードを取り外し、カードリーダーに挿入して、カードリーダーから microSD カード内の映像をエクスポートします。

-
- ⚠ • 使用中は、SD カードスロットと microSD カードが清潔で異物がないことを確認してください。
- 写真や動画の撮影時は、microSD カードを機体から取り出さないでください。microSD カードが損傷する可能性があります。
 - 使用する前にカメラ設定を確認し、正しく設定されていることを確認してください。
 - 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作するか確認してください。
 - 機体の電源を正しく切ってください。正しく電源を切らなかった場合、カメラのパラメーターが正常に保存されず、記録された写真や動画に影響がある場合があります。機械が読み取れない方式で記録された画像や動画による損失に対し、DJI は一切責任を負いません。
 - 機体の電源がオフの場合、写真や動画をカメラから転送／コピーすることはできません。
-

4.6 ジンバル

ジンバル角度

送信機のジンバルダイヤルを使用して、カメラのチルトを操作します。または、DJI Pilot 2 でカメラビューに入り、サークルが表示されるまで画面を押し、サークルを上下にドラッグすると、カメラのチルトを操作できます。

ジンバルに関する注記

-
- ⚠ • 電源を入れる前に、フレームアームが完全に展開されていることを確認してください。そうしないと、ジンバルの回転が妨げられ、故障の原因となります。
- 離陸する前に、ジンバル上にステッカーが貼られていないことや障害物がないことを確認してください。機体の電源を入れた状態で、ジンバルを押したり叩いたりしないでください。ジンバルを保護するために、平らで開けた場所から機体を離陸させてください。
 - ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着しないようにしてください。
 - ジンバルに公式アクセサリ以外の余計なペイロードを載せないでください。ジンバル動作の不具合や、さらにはモーターの損傷を引き起こすおそれがあります。

- 衝突や衝撃によりジンバルの精密性が損なわれるおそれがあります。損傷がある
と、ジンバル性能に異常をきたす可能性があります。ジンバルを損傷から必ず保護
してください。
- 機体が平らではない地面や草地に置かれている、または衝突のような外からの過剰
な力をジンバルが受けている場合、ジンバルが他の物体によって妨げられると、ジ
ンバルモーターが保護モードになることがあります。
- デバイスの電源を入れる前に、ジンバル プロテクターを取り外してください。デバ
イスを使用しないときは、ジンバル プロテクターを取り付けてください。
- 濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じること
があります。ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。

4.7 インテリジェント フライトバッテリー

注記

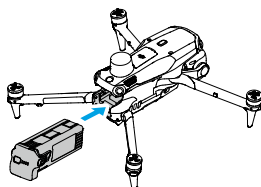
- ⚠ • ご使用の前に、安全ガイドラインとバッテリーのステッカーをご確認ください。ユ
ーザーはすべての操作と使用に対する責任を負うものとします。
1. 飛行直後にはインテリジェント フライトバッテリーが過熱していることがあります。す
ぐには充電しないでください。バッテリーを許容される充電環境温度まで放熱してから、
再充電してください。
 2. 損傷を防ぐため、バッテリー温度が充電許容温度内にあるときのみ、バッテリーは充電を
行います。推奨する充電温度範囲は 22℃～28℃です。理想的な温度範囲で充電すると、バ
ッテリーの寿命を延ばすことができます。充電中にバッテリーセルの温度が 55℃を超え
ると、充電は自動的に停止します。
 3. 低温注意：
 - バッテリーは極低温環境（-10℃より低い）では使用できません。
 - 低温環境で飛行する場合、バッテリー容量が著しく低下します。バッテリーを暖める
場合、機体をその場でホバリングさせます。
 - 低温環境では、離陸前にバッテリーを室温まで温め、使用前にバッテリーを温かい状
態に維持して、ウォームアップ時間を短縮することをお勧めします。極寒の天候では、
必要に応じてバッテリーを断熱してください。
 - 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風圧抵抗の性能が低下するため、細
心の注意が必要です。慎重に飛行してください。
 - 低温環境で標高の高いところを飛行する場合は、特に注意してください。
 - 上記の条件が満たされている場合、機体が飛行中で、DJI Pilot 2 アプリに重度のローバ
ッテリー残量警告が表示されたら、直ちに飛行を停止し、機体を適切な場所に着陸さ

せてください。自動着陸中も、送信機を使用して機体の方向を操作できます。たとえば、スロットルスティックを倒すと機体を上昇させることができます。

4. フル充電されたバッテリーは、一定時間使用しないと自動的に放電します。放電の過程でバッテリーから熱が放出されますが、これは正常です。
5. バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3カ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。バッテリーを長期間使用しないと、バッテリーの性能に影響が出たり、バッテリーが永久的な損傷を引き起こす場合があります。バッテリーが3ヶ月以上充放電されていない場合、バッテリーは保証の対象外となります。
6. 安全上の理由から、輸送中はバッテリーの残量を低い状態にしておいてください。輸送前に、バッテリーを30%以下に放電しておくことをお勧めします。
7. 過放電保護が有効で、機体がアイドル時に放電が自動的に停止し、過剰放電を防止します。再度使用する前にバッテリーを充電すると、過放電保護が解除されます。飛行中の場合、バッテリーの過放電保護は無効です。
8. 過放電はバッテリーの重大な損傷につながります。機体がアイドル状態でバッテリー残量が10%未満の場合、バッテリーはスリープモードに入り、過剰放電を防止します。

バッテリーの挿入／取り外し

インテリジェント フライトバッテリーを機体のバッテリー収納部に挿入します。バッテリーバックルがしっかりと固定されると、カチッという音がします。これでバッテリーが完全に挿入されていることを確認できます。



バッテリーバックルを押して、バッテリーを収納部から取り外します。

-
- ⚠ • 機体の電源が入っているときは、バッテリーを挿入したり取り外したりしないでください。
- カチッという音でバッテリーが挿入されていることを確認します。バッテリーがしっかりと取り付けられていない場合に機体を離陸させないでください。バッテリーと機体の接触が悪くなり、危険を招く恐れがあります。バッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
-

バッテリー残量の確認

電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。

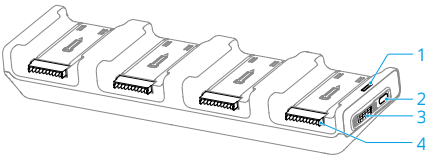
バッテリー残量 LED は、充電中および放電中に、バッテリーの残量を表示します。LED のステータスは以下のように定義されます：

- LED が点灯
- ◉ LED 点滅
- LED が消灯

点滅パターン	バッテリー残量
● ● ● ●	92%～100%
● ● ● ◉	76%～91%
● ● ● ○	63%～75%
● ● ◉ ○	51%～62%
● ● ○ ○	38%～50%
● ◉ ○ ○	26%～37%
● ○ ○ ○	13%～25%
◉ ○ ○ ○	0%～12%

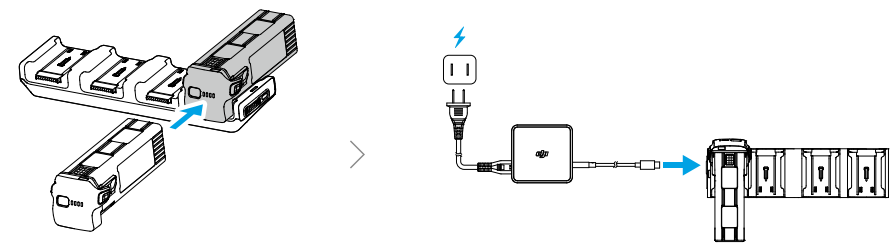
バッテリーの充電

充電ハブの使用



- | | |
|--------------|-------------|
| 1. ステータス LED | 3. モードスイッチ |
| 2. 電源ポート | 4. バッテリーポート |

使用方法



モードスイッチを切り替えて、充電モードを選択します。

-  **標準モード**：各バッテリーは、順番に 100%まで充電されます。
-  **飛行準備モード**：各バッテリーは順番に 90%まで充電され、充電 後も 90%に保たれます。
このモードは、バッテリーをすばやく使用するのに便利です。
- まず、バッテリー残量の一番多いインテリジェントフライトバッテリーを完全に充電し、他のバッテリーも残量が多いものから順に充電します。
- 充電が完了したら、インテリジェント フライトバッテリーを充電ハブから取り外します。

ステータス LED の説明

点滅パターン	説明
黄色点灯	バッテリー未挿入
緑色のパルス点滅	バッテリー充電中
緑色点灯	充電完了
黄色点滅	バッテリーまたは充電ハブの回復可能な異常（バッテリーまたは充電ハブが自動的に回復した後、それ以上の操作は必要なく、充電を継続することができます）
赤色点灯	バッテリーまたは充電ハブの回復不能な異常（バッテリーを取り外し再挿入するか、アダプターのプラグを抜き差ししてください）

-  • 充電ハブを使用してインテリジェント フライトバッテリーを充電する場合は、DJI 100W USB-C 電源アダプターが必要です。
- 充電ハブは、インテリジェント フライトバッテリー とのみ互換性があります。それ以外のバッテリーモデルと一緒に充電ハブを使用しないでください。
- 本充電ハブを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
- バッテリーポートの金属端子には、触れないでください。金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。

バッテリー残量 LED

下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています。

点滅パターン	バッテリー残量
	0～50%
	51～75%
	76～99%
	100%

バッテリー保護メカニズム

バッテリー残量 LED は、異常な充電状態に関するバッテリー保護通知を表示します。

LED	点滅パターン	状態
	LED2 が毎秒 2 回点滅	過電流検知
	LED2 が毎秒 3 回点滅	短絡検知
	LED3 が毎秒 2 回点滅	過充電検知
	LED3 が毎秒 3 回点滅	充電器の過電圧検知
	LED4 が毎秒 2 回点滅	充電温度が低すぎる
	LED4 が毎秒 3 回点滅	充電温度が高すぎる

バッテリー保護メカニズムが有効になった場合、充電を再開するには充電器のプラグを抜き、その後、再び差し込みます。充電温度範囲が異常な場合は、正常に戻るまでお待ちください。バッテリーは自動的に充電を再開します。その際に充電器のプラグを抜き差しする必要はありません。

4.8 機体 RTK

機体に内蔵された RTK モジュールは、金属製の構造物や高圧線の磁気干渉に対し強力な耐干渉性を発揮するので、安全で安定した飛行を維持できます。D-RTK 製品（別売）または DJI 認証のネットワーク RTK サービスを併用すると、より正確な測位データを取得できます。

🔦 • アクセサリのユーザーガイドを参照し、製品の使用方法を確認するには、<https://enterprise.dji.com/matrice-4-series/downloads> にアクセスしてください。

RTK の有効化／無効化

使用する前に、RTK 機能が有効になっていて、RTK サービスタイプが正しく設定されていることを確認してください。正しく設定されていない場合、RTK は測位に使用できません。DJI Pilot 2 に進み、**カメラビュー** > **・・・** >  をタップして、設定を表示および確認します。

-  • 飛行中に RTK 測位の有効化／無効化操作が可能です。
- RTK を有効にすると、測位精度維持モードを使用できるようになります。

カスタムネットワーク RTK

カスタムネットワーク RTK を使用するには、送信機に DJI セルラードングル 2 が取り付けられ、nano-SIM カードを装着していることを確認してください。または、送信機に Wi-Fi 接続があることを確認します。この機能を使用するときは、送信機の電源を入れて、インターネットに接続したままにしてください。カスタムネットワーク RTK は RTK ステーションと置き換えて使用できます。指定された NTRIP サーバーにカスタムネットワーク RTK アカウントを接続し、差分データを送受信します。

1. 送信機が機体とインターネットにそれぞれ接続されていることを確認してください。
2. DJI Pilot 2 に進み、**カメラビュー** > **・・・** > 、RTK サービスタイプに [カスタムネットワーク RTK] を選択し、必要な情報を入力します。次に **保存** をタップします。
3. NTRIP サーバーに接続するまで待ちます。[RTK 設定] で、ステータステーブルの機体の測位ステータスに「FIX」と表示され、機体がネットワーク RTK から差分データを取得して使用したことが示されます。

4.9 Return-to-Home (ホーム帰還)

このセクションの内容を注意深く読み、Return-to-Home (RTH：帰還) モードでの機体の挙動をよく理解してください。

Return-to-Home (RTH：帰還) 機能により、機体は最後に記録されたホームポイントまで自動的に飛行します。RTH は次の 3 つの方法のいずれかで起動します：ユーザーが積極的に RTH を起動したとき、機体のバッテリー残量が少ないとき、または送信機信号が失われたとき（フェールセーフ RTH が起動します）。機体がホームポイントを正常に記録し、測位システムが正常に機能している場合、RTH 機能が起動すると、機体は自動的に飛行して、ホームポイントに着陸します。

-  • ホームポイント：ホームポイントは、機体が強力な GNSS 信号  26 を受信しているか、照明が十分である限り、離陸時に記録されます。ホームポイントが記録されると、DJI Pilot 2 が音声プロンプトで通知します。飛行中にホームポイントを更新する

必要がある場合（位置が変更された場合など）、DJI Pilot 2 の ***> ⌘> コントロール ページでホームポイントを手動で更新できます。

RTH 中には、AR RTH ルートがカメラビューに表示され、帰還経路を確認して飛行の安全を確保します。カメラビューには、AR 着陸ポイントも表示されます。機体がホームポイント上空に到達すると、ジンバルカメラが自動的に下に向きます。機体が地表に近づくと、AR 機体シャドウがカメラビューに表示され、機体を正確に制御して希望する位置に着陸させることができます。表示は、***> ⌘> アシストで変更できます。

- ⚠ • AR RTH ルートはあくまで参考用です。シナリオによっては実際の飛行ルートからずれる場合があります。RTH 中は、常に画面のライブビューに注意を払ってください。慎重に飛行してください。
- RTH 中、デフォルトで、カメラが RTH ルートに向くように、機体はジンバルのチルトを自動調整します。ジンバルダイヤルを使用してカメラの向きを調整するか、または送信機のカスタマイズ可能なボタンを押してカメラの中心を再調整すると、機体によるジンバルの傾きの自動調整が停止され、AR RTH ルートが表示されなくなる可能性があります。

注記

- ⚠ • 測位システムに異常がある場合、機体はホームポイントに正常に戻れないことがあります。フェールセーフ RTH 中、測位システムに異常がある場合、機体は ATTI モードに入り、自動的に着陸することがあります。
- GNSS 信号がない場合は、水面やガラス面の建物の上を飛行したり、地上 30 m 以上の高度で飛行したりしないでください。測位システムが異常な動作をしている場合、機体は ATTI モードに入ります。
- 飛行の前には、その都度、適切な RTH 高度を設定してください。DJI Pilot 2 を起動して、RTH 高度を設定します。デフォルトの RTH 高度は 100 m です。
- 環境条件が検知システムに適していない場合、機体は RTH 中に障害物を検知しません。
- GEO 区域は RTH に影響を及ぼす恐れがあります。GEO 区域付近での飛行は避けてください。
- 風速が大きすぎる場合、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行してください。
- RTH 中は、小さく細い物体（木の枝や送電線など）や、透明な物体（水やガラスなど）に特に注意してください。緊急時は RTH を終了し、機体を手動で操作してください。

- RTH 経路で機体が迂回できない送電線や送電塔が存在する場合には、アドバンスト RTH をプリセットに設定し、RTH 高度を必ずすべての障害物より高い高度に設定しておいてください。
- DJI Pilot 2 のアドバンスト RTH 設定を RTH 中に変更した場合、機体は最新の設定に従ってブレーキをかけて帰還します。
- RTH 時、最大高度が現在の高度よりも低い高度に調整されていた場合、機体は最初に最大高度まで下降して、帰還します。
- RTH 高度は RTH 時には変更できません。
- 現在の高度と RTH 高度間に大きな差異がある場合は、異なる高度での風速により消費したバッテリー使用量を正確に計算することはできません。バッテリー残量と DJI Pilot 2 の警告プロンプトに細心の注意を払ってください。
- アドバンスト RTH 中、送信機信号が正常な場合、ピッチスティックを使用して飛行速度を制御することはできますが、その向きと高度を制御したり、機体を左右に飛行させるように制御したりすることはできません。ピッチスティックを倒し続けて加速すると、バッテリーの消費が早くなります。飛行速度が有効検知速度を超えると、機体は障害物を迂回できません。ピッチスティックを押して、下に最後まで倒すと、機体にブレーキがかかり停止し、その場でホバリングし、RTH を終了します。ピッチスティックを離すと、機体を制御することができます。
- 機体がプリセット RTH 中に上昇している時に機体の現在位置またはホームポイントの高度制限に達すると、機体は上昇を停止し、現在の高度でホームポイントまで飛行します。RTH 中は飛行の安全に注意してください。
- 機体を屋外で使用する際のホームポイントが高度制限区域内にあるにもかかわらず、機体が高度制限区域内にない場合、機体が高度制限区域に達すると、この高度は、設定されている RTH 高度よりも低い高度制限まで降下する可能性があります。慎重に飛行してください。
- OcuSync 動画伝送が遮断され、接続が切断された場合、機体は 4G 強化伝送にのみ頼ることになります。RTH ルート上に大きな障害物がある可能性を考慮し、RTH 中の安全を確保するため、RTH ルートは前回の飛行経路を参考にして設定されます。4G 強化通信を使用する場合は、バッテリーの状態と地図上の RTH ルートに特に注意を払ってください。
- 複雑な環境で RTH を完了できない場合、検知システムが適切に動作している場合でも、機体は RTH を終了します。
- RTH は、自動着陸中に起動することはできません。

アドバンスド RTH

アドバンスド RTH がトリガーされると、機体は自動的に最適な RTH ルートを計画し、そのルートは DJI Pilot 2 で表示され、環境に応じて調整されます。RTH 中、機体は風速、風向き、障害物などの環境要因に応じて飛行速度を自動で調整します。

送信機と機体間の制御信号が正常であれば、RTH ボタンまたは飛行一時停止ボタンを押して、RTH を終了します。RTH を終了すると、機体を制御できるようになります。

開始方法

ユーザーが能動的に RTH を起動

飛行中に RTH を開始するには、送信機の RTH ボタンを長押ししてください。

機体のローバッテリー状態

飛行中、バッテリー残量が低下し、ホームポイントまでしか飛行できなくなると警告プロンプトが DJI Pilot 2 に表示されます。RTHを確認するためにタップするか、カウントダウンが終了する前に行動を起こさない場合、機体は自動的にローバッテリー RTH を開始します。

ローバッテリーの RTH プロンプトをキャンセルし、機体の飛行を続けた場合、現在のバッテリー残量では、現在の機体の高度から下降させることしかできない場合、自動で着陸します。

自動着陸はキャンセルできませんが、ピッチスティックとロールスティックを使用して機体を水平に移動できます。または、スロットルスティックを使用して下降速度を制御できます。できるだけ早く着陸に適した場所に機体を飛行してください。

-
- ⚠ • インテリジェント フライトバッテリーの残量が低すぎて、帰還に必要な電力がない場合は、できるだけ早く機体を着陸させてください。バッテリーが完全に消耗すると、機体は墜落します。
- 自動着陸中は、スロットルスティックを上にも倒し続けしないでください。倒し続けた場合、機体はバッテリーが完全に消耗した後に墜落します。
-

送信機信号の消失

送信機信号が失われた場合、信号ロストアクションが RTH に設定されていれば、機体は自動的にフェールセーフ RTH を開始します。

照明や環境条件がビジョンシステムに適している場合、DJI Pilot 2 は、信号が失われる前に機体が生成した RTH 経路が表示されます。RTH 設定に応じて、機体はアドバンスド RTH を使用して RTH を開始します。送信機信号が回復しても、機体は RTH モードのままになります。DJI Pilot 2 は状況に応じて RTH 経路を更新します。

照度や環境条件がビジョンシステムに適していない場合、機体はブレーキをかけて、その場でホバリングし、その後オリジナルルート RTH に入ります。

- RTH 距離（機体とホームポイント間の水平距離）が 50 m 以上離れている場合、機体は向きを調整し、元の飛行ルート上を 50 m 後方に飛行し、その後プリセット RTH に移行します。
- RTH 距離が 5 m を超え 50 m 未満の場合、機体は向きを調整し、現在の高度でホームポイントに真っ直ぐ水平に飛行します。
- RTH 距離が 5 m 未満の場合、機体は速やかに着陸します。

RTH 手順

アドバンスド RTH が起動すると、機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。

- **環境条件や照明条件がビジョンシステムに適している場合：**
 - 離陸時に GNSS が利用可能であった場合、機体はホームポイントに向きを合わせ、RTH 設定に従って最適な経路を計画し、ホームポイントに戻ります。
 - 離陸時に GNSS が利用できず、ビジョンシステムのみが作動していた場合、機体はホームポイントに向きを調整し、RTH 設定に従って最適な経路を計画し、RTH 設定に基づいて GNSS 信号の強い位置に戻ります。機体は、概ね離陸時の経路をたどり、ホームポイント付近に戻ります。このとき、アプリのプロンプトに注意し、機体を自動的に RTH と着陸させるか、手動で RTH と着陸を制御するかを選択してください。

離陸時に GNSS 信号が利用可能かどうか確認してください：

- 障害物回避機能が有効になっていることを確認してください。
- 狭い場所や風速が 3 m/s を超える強風の中では飛行しないでください。
- 離陸後は速やかに開けた場所に飛行し、障害物から少なくとも 10 m 以上離れてください。そうでないと、機体がホームポイントに戻れなくなることがあります。飛行中は、強い GNSS 信号が受信できるエリアに到達するまで、水面の上を飛行しないでください。地上の高度は 2 m 以上 30 m 未満でなければなりません。そうでないと、機体がホームポイントに戻れなくなることがあります。機体が強い GNSS 信号を受信するエリアに到達する前に ATTI モードに入った場合、ホームポイントは無効になります。
- 飛行中にビジョンポジショニングが利用できない場合、機体はホームポイントに戻れません。アプリの音声プロンプトに従って、周囲に注意を払い、衝突を防止してください。
- 機体が離陸地点付近に戻ったときに、アプリから複雑な環境であるというプロンプトが表示された場合、飛行を続行するかどうか確認してください：
 - 飛行経路が正しいかどうか確認し、飛行安全性に注意してください。
 - ビジョンシステムが正常に動作するのに十分な照明条件であることを確認する必要があります。不十分な場合、機体は RTH を終了する可能性があります。機体を強制的に RTH または飛行を続行させると、ATTI モードに入る可能性があります。

- 確認後、機体は低速でホームポイントへ戻ります。帰還経路上に障害物が現れた場合、機体はブレーキをかけ、RTH を終了する可能性があります。
 - この RTH プロセスは、ガラスや白い壁などのテクスチャのないシーンでの障害物検出に対応していません。
 - この RTH プロセスは、地面や周囲の環境（壁など）に豊富なテクスチャがあり、動的な変化がないことが前提になります。
- 環境条件や照明条件がビジョンシステムに適していない場合：**
 - RTH 距離が 50 m を超える場合、機体は**プリセット**に従ってホームへ帰還します。
 - RTH 距離が 5 m 未満の場合、機体は速やかに着陸します。

地形データ

送信機がインターネットに接続されたら、DJI Pilot 2 で ***> ⌵ > **アシスト** をタップし、**[地形データ]** を有効にすると、送信機は標高データを自動的に機体へダウンロードします。地形データに基づいて、機体は最適な飛行経路を計画し、RTH 中に経路上の障害物を迂回するすることができます。

地形データを有効にすると、

- 環境や照度条件がビジョンシステムに適している場合、機体は地形データとビジョンシステムによって収集されたデータに基づいて最適な飛行経路を自動的に計画します。最適な飛行経路は、地形の障害物から安全な距離を維持します。
- 環境や照度条件がビジョンシステムに適していない場合は、地形データのみが有効です。モデルデータが不正確な場合、安全上のリスクが生じる可能性があります。

💡 • 地形データに基づいて、機体は GNSS 信号が弱いエリアを迂回し、機体の測位精度を確保します。地形データにクレーン、送電線、橋などの吊り下げモデルがある場合、機体はそれらのオブジェクトの上を飛行して障害物を迂回しようとします。

⚠️ • 機体が測位に GNSS を使用している場合、測位精度が比較的低くなり、障害物迂回性能に影響を及ぼす可能性があります。ユーザーは飛行経路とカメラビューに細心の注意を払い、慎重に飛行する必要があります。

RTH 設定

RTH 設定はアドバンスド RTH で使用可能です。DJI Pilot 2 のカメラビューに進み、***> ⌵ > **コントロール** をタップし、**[ホーム帰還 (RTH)]** までスクロールします。

- 最適化：**



- 照度が十分で、ビジョンシステムに適した環境であれば、RTH 高度の設定に関係なく、機体は最適な RTH 経路を自動的に計画し、障害物や伝送信号などの環境要因に応じて高度を調整します。最適な RTH 経路とは、機体が可能な限り最短距離を飛行することでバッテリー使用量が抑えられて長時間の飛行を可能にする経路を指します。
- 照度が不十分で、環境がビジョンシステムに適していない場合、機体は RTH 高度設定に基づいてプリセット RTH を実行します。
- プリセット：



RTH 距離／高度		適切な照度と環境条件	不適切な照度と環境条件
RTH 距離 > 50 m	現在の高度 < RTH 高度	機体は RTH 経路を計画し、障害物を迂回しながら開けた場所まで飛行し、RTH 高度まで上昇してから最適な経路を通して帰還します。	機体は RTH 高度まで上昇し、RTH 高度でホームポイントまで直線的に飛行します。 ^[1]
	現在の高度 ≥ RTH 高度	機体は現在の高度を維持したまま、最適な経路を使用してホームに戻ります。	機体は現在の高度でホームポイントまで直線的に飛行します。
RTH 距離が 5～50 m の間			

[1] 前向き LiDAR が障害物を検知した場合、機体は障害物を避けるために上昇します。前方の経路がクリアになったら上昇を停止し、RTH を続けます。障害物の高さが高度制限を超える場合、機体はブレーキをかけてホバリングし、ユーザーが制御する必要があります。

☀️ • [ホーム帰還 (RTH)] が [プリセット] に設定されると、[直接着陸] オプションが表示されます。有効にした場合、機体はホームポイント上空に到着すると直接着陸します。

機体がホームポイントに接近している場合は、現在の高度が RTH 高度より高ければ、周辺環境、照度、設定された RTH 高度、現在の高度に応じて、前方飛行中に降下するかどうかをインテリジェントに判断します。機体がホームポイント上空に到達すると、現在の高度を下回ることはありません。

環境別の RTH プラン、RTH トリガー方法、RTH 設定は以下の通りです。

RTH トリガー方法	適切な照度と環境条件 (機体は障害物と GEO 区域を迂回できます)	不適切な照度と環境条件
ユーザーによる能動的な RTH の発動	機体は RTH 設定に基づいて RTH を実行する： - 最適化 - プリセット	プリセット（機体は上昇し、障害物と GEO 区域を迂回できます）
機体のバッテリー残量低下		
送信機信号の消失		元のルートで RTH 中 信号が回復すると、プリセットされた RTH が実行されます。（機体は GEO 区域を迂回し、障害物があれば停止してホバリングします）

着陸保護

RTH 中、機体が着陸を開始すると、着陸保護が有効になります。

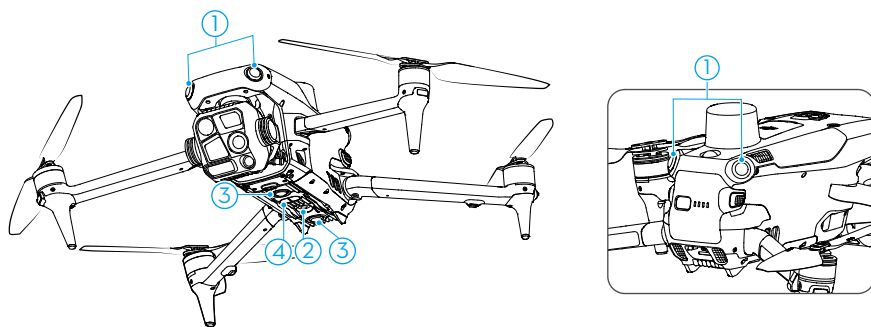
具体的な機体性能は以下の通りです：

- 地面が着陸に適していると判断された場合には、機体は直接着陸します。
- 地面が着陸に適していないと判断された場合には、機体はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。
- 着陸保護が作動しない場合、機体が地上 0.5 m まで下降すると、DJI Pilot 2 が着陸プロンプトを表示します。**確認** をタップするか、1 秒間スロットルスティックを完全に下に倒すと、機体が着陸します。

-  • 機体はホームポイント上空に到達後、離陸ポイントに着陸します。高精度着陸の実行は、以下の条件に左右されます。
- 離陸時にホームポイントが記録される必要があり、飛行中に変更してはいけません。
 - 離陸中、水平方向へ移動する前に、機体は少なくとも 7 m 垂直に上昇しておく必要があります。
 - ホームポイントの地形特徴が、激しく変化しない必要があります。

- ホームポイントの地形特徴が、他と区別できる状態である必要があります。一面雪で覆われたエリアなどの地形には適していません。
- 照度条件が、明るすぎず暗すぎない状態である必要があります。
- 着陸中にスロットルスティック以外のその他の操作スティックを動かすと、高精度着陸を中断したものとみなされ、機体は垂直に降下します。

4.10 検知システム



- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 全方向ビジョンシステム | 3. 下方ビジョンシステム |
| 2. 補助ライト | 4. 3D 赤外線検知システム |

全方向ビジョンシステムは、照度が適切で、障害物がはっきりと識別できるか、その表面の質感がはっきりとしている場合に、最も効果的に動作します。機体がノーマルモードあるいはトライポッドモードで、DJI Pilot 2 で [障害物回避アクション] が [回避] または [ブレーキ] で設定されている場合、全方向ビジョンシステムが自動的に有効になります。測位機能は、GNSS 信号が利用できない場合、もしくは弱い場合に適用されます。

機体下部の補助ライトは、下方ビジョンシステムを支援します。飛行高度が 5 m 未満の低照度環境で、補助ライトがデフォルトで自動点灯します。DJI Pilot 2 アプリでライトを手動でオン／オフに設定できます。機体を再起動するたびに、補助ライトはデフォルト設定の**自動**に戻ります。

- ☀️ • ビジョンポジショニングと障害物検知を無効にすると、機体は GNSS のみに頼ってホバリングし、全方位障害物検知は使用できなくなり、機体は地上近くでの降下中に自動的に減速なくなります。ビジョンポジショニングと障害物検知が無効になっている場合は、特に注意が必要です。
- ビジョンポジショニングと障害物検知を無効にすることは、手動で飛行している場合のみ有効で、RTH や自動着陸などの自動モードの使用時には有効ではありません。

注記

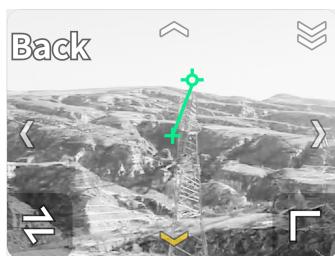
- ⚠ • 飛行環境に注意してください。検知システムは、特定のシナリオでのみ機能し、人による操作と判断に取って代わることはできません。飛行中は、常に周囲の環境と DJI Pilot 2 での警告に注意を払い、責任を持って機体の操作にあたってください。
- GNSS が利用できない場合、下方ビジョンシステムが機体のポジショニングを補助し、機体の高度が 0.5 m から 30 m の高さにあるときに最適に機能します。機体の高度が 30 m を超える場合は、ビジョンポジショニング性能に影響が出る可能性があるため、特に注意が必要です。
- 低照度環境では、補助ライトがオンになっていても、ビジョンシステムは最適な測位性能を発揮できない場合があります。このような環境で GNSS 信号が弱い場合は、慎重に飛行してください。
- 機体が水面付近を飛行している場合、下方ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのため、着陸時に、機体の下に水面がある場合、能動的に回避できない場合があります。常に飛行を制御し続け、周囲の環境に基づいて合理的な判断を下し、下方ビジョンシステムに過度に依存しないようにしてください。
- ビジョンシステムは、タワー・クレーン、高圧送電鉄塔、高圧送電線、斜張橋、吊り橋など、フレームとケーブルを使った大型構造物を正確に識別できません。
- ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の周辺、または照度が弱すぎたり強すぎたりする環境では、適切に機能しません。ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。
 - モノクロ（黒一色、白色、赤色、緑色など）の地表面付近を飛行している場合。
 - 反射率が高い地表面付近を飛行している場合。
 - 水面または透明な地表面付近を飛行している場合。
 - 動く面または物体の周辺を飛行している場合。
 - 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合。
 - 非常に暗い（0.5 ルクス未満）または非常に明るい（40,000 ルクス超）地表面付近を飛行している場合。
 - 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）付近を飛行している場合。
 - はっきりした模様や構造のない地表面付近を飛行する場合。
 - 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面付近を飛行している場合。
 - 表面積の小さい障害物付近を飛行している場合（木枝や電線など）。
- センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサー表面を傷つけたり、改造したりしないでください。ほこりや湿気のある環境で機体を使用しないでください。

- 長期間保管後、ビジョンシステムカメラはキャリブレーションが必要な場合があります。DJI Pilot 2 にプロンプトが表示され、自動的にキャリブレーションを実行します。
 - 雨や霧、または視界が 100 m 未満の場合は飛行しないでください。
 - 検知システムを遮断しないでください。
 - 離陸前に、以下の項目を必ず確認してください。
 - 検知システムのガラスにステッカーやその他の障害物がいないことを確認してください。
 - 検知システムのガラスに汚れや埃、水が付いている場合は、柔らかい布で拭き取ります。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
 - 検知システムのレンズに傷などがある場合は、DJI サポートにお問い合わせください。
 - 昼夜問わず、機体はどんな時間でも飛行できます。しかし、低照度環境で機体を飛行させる場合、ビジョンシステムは使用できなくなります。慎重に飛行してください。
-

ビジョンアシスト

ビジョンアシストビューは、ビジョンシステムによって駆動され、飛行速度方向に応じて対応するビジョンセンサーからのビューに画像を変更し、飛行しながら障害物の監視を支援します。

- ⚠ • ビジョンアシストの使用中は、伝送帯域幅の制限、携帯電話の性能、または送信機画面の映像伝送解像度により、映像伝送の品質が低下する可能性があります。
 - ビジョンアシストビューにプロペラが映ることがありますが、これは正常です。
 - ビジョンアシストはあくまで参考用です。ガラスの壁や、木の枝、電線、風糸などの小さな物体は、正確に表示できません。
 - 機体が離陸していないときや、動画伝送信号が弱い場合、ビジョンアシストは使用できません。
-



矢印をタップして、ビジョンアシストビューの方向を切り替えます。長押しして方向をロックします。画面の中央をタップして、ビジョンアシストビューを最大化します。

- ⚠️ • 方向が特定の方向にロックされていない場合、ビジョンアシストビューは自動的に現在の飛行方向に切り替わります。他の方向矢印をタップすると、ビジョンアシストビューの方向がしばらく切り替わり、現在の飛行方向のビューに戻ります。
- ビジョンアシストの方向が特定の方向にロックされている場合、他の矢印をタップして、一時的にビジョンアシストビューを切り替えることができます。その後、現在にロックされている方向に戻ります。

4.11 高度操縦支援システム (APAS)

高度操縦支援システム (APAS) 機能は、ノーマルモードとシネモードで使用できます。APAS 有効時、機体は操作に引き続き反応します。操作スティックによる入力情報と飛行環境の両方を考慮して経路を計画します。APAS を使用すると、障害物の回避が容易になります。その結果、より滑らかな映像が実現し、優れた飛行体験を提供します。

APAS 有効時、送信機の飛行一時停止ボタンを押して機体を停止させることができます。機体にブレーキがかかり、3 秒間ホバリングして、パイロットからのさらなる操作入力を待ちます。

APAS を有効にするには、DJI Pilot 2 を開き、***>④に進み、障害物回避で [回避] を選択します。

注記

- ⚠️ • ビジョンシステムが利用可能な場合、必ず APAS を使用するようにしてください。目的の飛行経路に沿って人、動物、表面積の小さい物体（木枝など）、透明な物体（ガラスや水など）がないことを必ず確認してください。

- 下方ビジョンシステムが利用可能であるか GNSS 信号が強いときには APAS を必ず使用するようにしてください。水や雪で覆われたエリアの上を機体が飛行している場合、APAS が正しく機能しない可能性があります。
- 非常に暗い（300 ルクス未満）環境や非常に明るい（10,000 ルクス超）環境で飛行させる場合は、特に注意してください。
- DJI Pilot 2 に注意を払い、APAS が正常に作動しているかを確認してください。
- 機体が飛行制限に近い状態で飛行している場合や GEO 区域内を飛行している場合、APAS が正しく機能しない可能性があります。
- 照明が不十分になり、ビジョンシステムが部分的に使用できなくなると、機体は障害物の迂回からブレーキとホバリングに切り替わります。操作スティックを中央に戻してから、引き続き機体进行操作してください。

着陸保護

障害物回避アクションが回避またはブレーキに設定されると、着陸保護はスロットルスティックを下方方向に倒して、機体を着陸させた場合に有効になります。機体が着陸を開始すると、着陸保護が有効になります。

- 地面が着陸に適していると判断された場合には、機体はそのまま着陸します。
- 地面が着陸に適さないと判断された場合、機体は一定の高さまで下降してホバリングします。5 秒以上スロットルスティックを押し下げると、機体は障害物検知が動作せずに着陸します。

4.12 DJI AirSense

ADS-B トランシーバーを搭載した航空機は、位置、飛行経路、速度、高度などのフライト情報を能動的に送信します。DJI AirSense テクノロジーを組み込んだ DJI の機体は、半径 10 km の範囲内で ADS-B トランシーバー（1090ES または UAT 規格に準拠）から送信されるフライト情報を受信できます。DJI AirSense は、受信したフライト情報に基づいて、周囲の有人航空機の位置、高度、向き、速度を取得して分析できます。これらの数値を DJI の機体の現在位置、高度、向き、速度と比較して、周囲の有人航空機との起こりうる衝突のリスクをリアルタイムで計算します。DJI AirSense は、DJI Pilot 2 にリスクレベルに応じた警告メッセージを表示します。

DJI AirSense は、特別な状況下での特定の有人航空機による接近に関する警告メッセージのみを発行します。DJI AirSense には以下の制限があります。ご注意ください。

- DJI AirSense は ADS-B 送信機器を搭載した有人航空機によって送信され、1090ES (RTCA DO-260) または UAT (RTCA DO-282)規格に準拠したメッセージのみを受信できます。DJI 機器は、正常に機能している ADS-B 出力機器が装備されていない有人航空機からのブロードキャストメッセージを受信することも、警告を表示することもできません。

- 有人航空機と DJI の機体の間に障害物がある場合、DJI AirSense は航空機からの ADS-B メッセージを受信することも、ユーザーに警告を送信することもできません。周囲を慎重に観察・確認しながら、慎重に飛行してください。
- DJI AirSense が周囲環境から何らかの干渉を受けた場合には、警告プロンプトが遅れて送信されることがあります。周囲を慎重に観察・確認しながら、慎重に飛行してください。
- DJI の機体の現在位置の情報が取得できない場合には、警告プロンプトが受信されないことがあります。
- DJI AirSense が無効になっている、または誤って設定されている場合、有人航空機からの ADS-B メッセージを受信したり、警告を送信したりすることができません。

DJI AirSense システムからリスクが検出されると、DJI Pilot 2 の現在のビューに AR プロジェクション 画面が表示され、DJI の機体と航空機との距離が直感的に表示され、警告アラートが発行されます。アラートを受信したら、DJI Pilot 2 の指示に従ってください。

注記：青色の飛行機のアイコンがマップに表示されます。

注意：アプリに以下のメッセージが表示されます。**有人航空機が近くに検出されました。慎重に飛行してください。** 距離情報を含む小さなオレンジ色の正方形のアイコンがカメラビューに表示され、オレンジ色の飛行機のアイコンがマップビューに表示されます。

警告：アプリに以下のメッセージが表示されます。**衝突のリスクあり。直ちに下降または上昇してください。** ユーザーが操作していない場合、アプリには以下のように表示されます。**衝突のリスクあり。慎重に飛行してください。** 距離情報を含む小さな赤色の正方形のアイコンがカメラビューに表示され、赤色の飛行機のアイコンがマップビューに表示されます。送信機が振動して警告を発します。

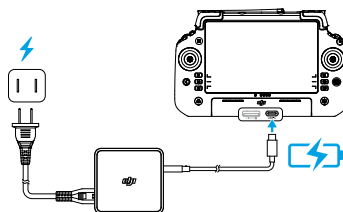
4.13 拡張ポート

機体には PSDK をサポートする E ポートが装備されており、より多くの機能開発が可能になります。SDK 開発および手順の詳細については、<https://developer.dji.com> を参照してください。

5 送信機

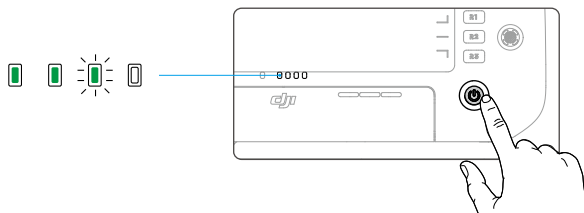
5.1 バッテリーの充電

- ☀ • 3 ヶ月ごとに、送信機は完全に放電してから充電してください。バッテリーは長期間保管すると、消耗します。
- ⚠ • 最適な状態で充電できるように、同梱の USB-C - USB-C ケーブルの使用をお勧めします。



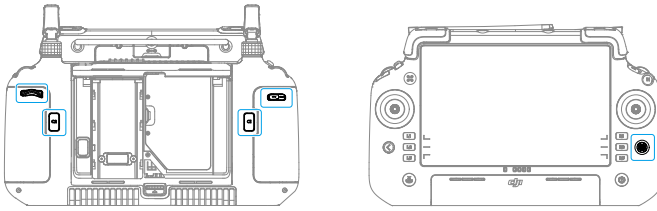
バッテリー残量の確認

送信機の電源ボタンを 1 回押して、内部バッテリー残量を確認します。



5.2 カスタムボタン

C1、C2、C3、C4、および 5D ボタンはカスタム可能です。DJI Pilot 2 を開き、カメラビューに入ります。***>📷をタップし、これらのボタンの機能を設定します。さらに、C1、C2、C3 ボタンと 5D ボタンを使用して、組合せをカスタマイズできます。



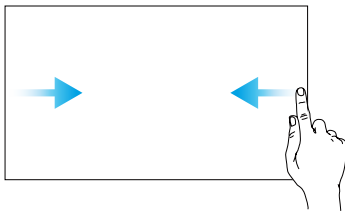
5.3 ボタンの組合せ

ボタンの組合せを使用して、頻繁に使用する機能を有効化することができます。ボタンの組合せを使用するには、戻るボタンを押しながら、組み合わせる他のボタンを押します。実際に使用する場合は、送信機のホーム画面に入り、[ガイド]をタップすると、使用可能なすべての組み合わせボタンを一目で確認できます。

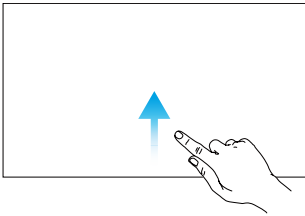
デフォルトで設定されているボタンの組合せ機能は変更できません。以下の表には各ボタンのデフォルトの組合せ機能が記載されています。

組み合わせ操作	機能
戻るボタン + 左ダイヤル	明るさの調整
戻るボタン + 右ダイヤル	音量の調整
戻るボタン + 録画ボタン	画面収録
戻るボタン + シャッターボタン	スクリーンショット
戻るボタン + 5D ボタン	上にトグル - ホーム、下にトグル - ショートカット設定、左にトグル - 最近開いたアプリ

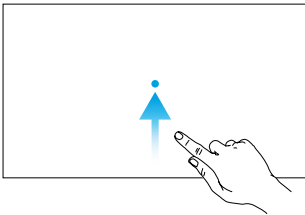
5.4 タッチ画面の操作



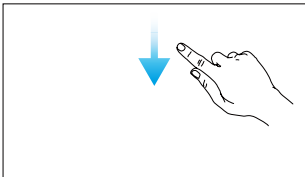
画面の左または右から中央にスワイプすると、前の画面に戻ります。



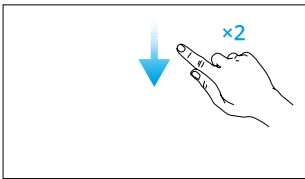
画面の下部から上にスワイプすると、ホーム画面に戻ります。



画面の下部から上にスワイプして長押しすると、最近開いたアプリにアクセスできます。



DJI Pilot 2 では、画面の上部から下にスライドすると、ステータスバーが開きます。ステータスバーには、時刻、Wi-Fi 信号、送信機のバッテリー残量などの情報が表示されます。



DJI Pilot 2 では、画面の上部から下に 2 回スライドすると、[クイック設定]が開きます。DJI Pilot 2 以外では、画面の上部から下に 1 回スライドすると、[クイック設定]が開きます。

5.5 送信機の LED

ステータス LED

点滅パターン	説明
 — 赤色点灯	機体との接続が切断。
 赤色点滅	機体のバッテリー残量が低下。
 緑色点灯	機体と接続完了。
 青色点滅	送信機は機体にリンク中。
 — 黄色点灯	ファームウェア更新に失敗。
 — 青色点灯	ファームウェア更新に成功。

点滅パターン	説明
 黄色点滅	送信機のバッテリー残量が低下。
 水色に点滅	操作スティックが中央位置にない。

バッテリー残量 LED

バッテリー残量 LED は送信機のバッテリー残量を表示します。

バッテリー残量 LED	バッテリー残量
	88-100%
	75-87%
	63-74%
	50-62%
	38-49%
	25-37%
	13-24%
	0-12%

5.6 送信機のアラート

エラーや警告がある場合、送信機がピープ音を鳴らします。タッチ画面または DJI Pilot 2 にプロンプトが表示された場合は注意してください。

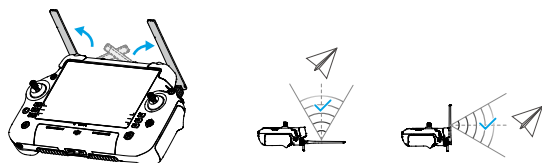
画面の上から下にスワイプして[ミュート]を選択すると、アラート音を無効になります。もしくは、音量バーを 0 にスライドすると、一部の警告アラート音が無効になります。

送信機は RTH 中にアラート音を鳴らします、これを止めることはできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。電源ボタンを押すと、バッテリー残量低下のアラート音はキャンセルできます。バッテリー残量が極度に低くなると、アラート音はキャンセルできません。

送信機の電源が入っている状態で、機体と接続せずに一定時間操作しないと、アラート音が鳴ります。アラート音が止まると、自動的に電源がオフになります。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。

5.7 最適な伝送範囲

アンテナを立てて、角度を調整します。送信機の信号強度は、アンテナの位置に影響を受けません。



送信機と機体が最適な伝送範囲内に収まるように、外部アンテナの方向を調整し、平らな部分が機体に面していることを確認します。

- ⚠️ • 損傷防止のため、アンテナを伸ばしすぎないでください。アンテナが破損している場合は、DJI サポートに連絡して、送信機を修理してください。アンテナが破損すると、送信機の性能が大幅に低下し、飛行の安全性に影響を及ぼす恐れがあります。
- 飛行中は、送信機の通信信号との干渉を避けるため、同じ周波数帯で 2.4 GHz または 5.8 GHz を使用する他の通信機器を同時に使用しないでください。携帯電話の Wi-Fi を有効にするなど。
- 飛行中に伝送信号が弱い場合、DJI Pilot 2 にプロンプトが表示されます。アンテナを調整して、機体が最適な伝送範囲内にできるようにしてください。

5.8 送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。別々に購入した場合には以下の手順に従って機器をリンクさせてください。

方法 1：ボタンの組合せを使用

1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. ステータス LED が青色に点滅し、送信機のピープ音が鳴るまで、C1、C2、録画ボタンを同時に押します。
3. 機体の電源ボタンを、5 秒以上長押しします。リンクの準備ができると、機体はピープ音を鳴らし、バッテリー残量 LED が連続して点滅します。リンクが成功すると、送信機はピープ音を 2 回鳴らし、ステータス LED が緑色に点灯します。

方法 2：アプリの使用

1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. DJI Pilot 2 を起動し、**送信機をリンク**をタップしてリンクします。リンク中は送信機のステータス LED が青色に点滅し、送信機からピープ音が鳴ります。

3. 機体の電源ボタンを、5 秒以上長押しします。リンクの準備ができると、機体はピープ音を鳴らし、バッテリー残量 LED が連続して点滅します。リンクが成功すると、送信機はピープ音を 2 回鳴らし、ステータス LED が緑色に点灯します。

-
- ☼ • リンクは、送信機が機体から 0.5 m 以内にある状態で行ってください。
- DJI アカウントを使ってログインするときは、送信機がインターネットに接続していることを確認してください。
-

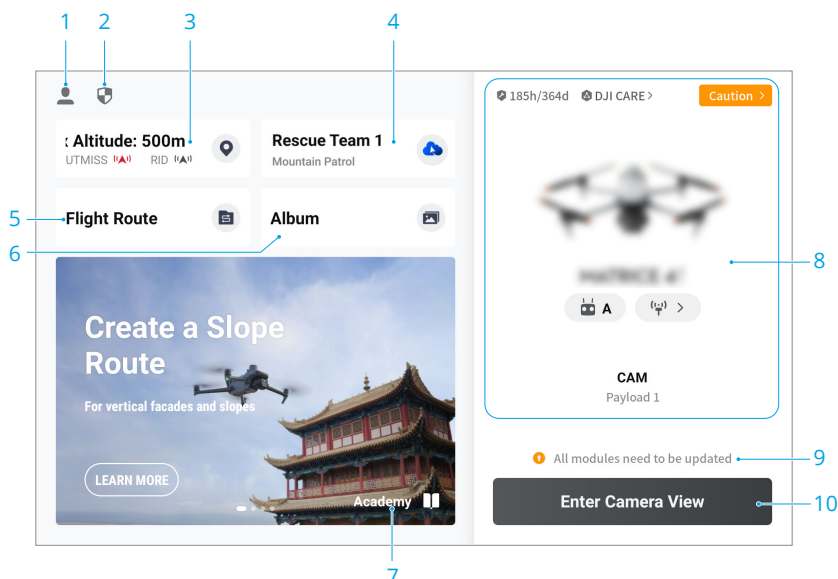
5.9 HDMI 設定

送信機の HDMI ポートに接続すると、タッチ画面を外部ディスプレイに画面共有できます。

解像度は、 > ディスプレイ > HDMI で設定できます。

6 DJI Pilot 2 アプリ

6.1 ホーム画面



1. 概要

タップすると、飛行記録の表示、オフラインマップのダウンロード、GEO 区域のロック解除管理、ヘルプドキュメントの閲覧、言語の選択などを行うことができます。

2. データとプライバシー

タップすると、ネットワークセキュリティモードの管理、セキュリティコードの設定、アプリのキャッシュ管理、DJI 機器ログの消去を行えます。

3. GEO 区域マップ

タップすると、現在の操作エリアが制限区域または承認区域にあるかどうか、および現在の飛行可能な高度を表示します。

4. クラウドサービス

タップすると、クラウドサービスの接続ステータスを表示します。サービスの種類を選択したり、現在接続されているサービスから別のクラウドサービスに切り替えたりできます。

- ☀️ ログインした DJI アカウントに DJI FlightHub 2 のライセンスが付与されている場合は、アプリのホーム画面でクラウドサービスをタップすると、DJI FlightHub 2 に自動的にログインします。

詳細情報については、DJI の公式ウェブサイトの DJI FlightHub 2 のページにアクセスしてください：<https://www.dji.com/flighthub-2>。

5. 飛行経路

タップすると、飛行ルートライブラリに入ります。ユーザーは飛行タスクを作成し、全てのタスクを表示できます。飛行タスクは、送信機や別の外部モバイル端末のストレージに、バッチ処理でインポートおよびエクスポートできます。DJI FlightHub 2 が接続されている場合は、クラウドから送信されたすべての飛行タスクを表示したり、ローカルタスクをクラウドにアップロードしたりすることもできます。

6. アルバム

7. アカデミー

8. 健康管理システム

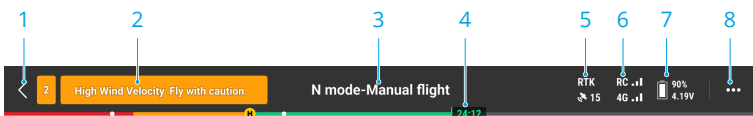
9. ファームウェア更新のショートカット

- 📖 機体の一部のモジュールのファームウェアバージョンがシステムの互換性のあるバージョンと一致していない場合は、一致したファームウェア更新が必要です。

10. カメラビューに入る

6.2 カメラビュー

トッパー



1. 戻る

2. システム ステータスバー

飛行中に新しいアラートが表示された場合は、ここに表示され、点滅し続けます。タップして情報を表示し、点滅を停止します。

3. 飛行ステータス

タップすると、フライト前のチェックビューに入ります。

4. バッテリー残量インジケータバー

離陸後のインテリジェント フライトバッテリーのバッテリー残量と残りの飛行時間を表示します。

5. GNSS 測位ステータス

検索した衛星の数を表示します。RTK サービスが無効になっている場合、RTK アイコンは灰色になります。RTK データが集計されると、RTK アイコンは白色に変わります。GNSS 測位ステータスのアイコンをタップすると、RTK モードと GNSS 測位情報を表示します。

6. 信号強度

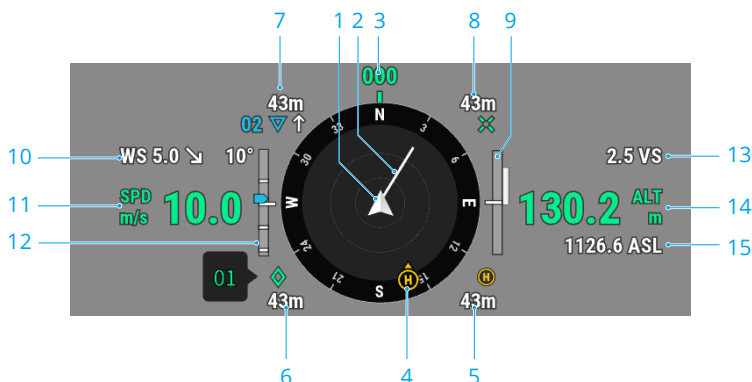
7. インテリジェント フライトバッテリーの残量

機体の現在のバッテリー残量を表示します。タップすると、バッテリー残量、電圧、温度を表示します。

8. 設定

タップすると設定メニューを展開し、各モジュールのパラメーターを設定します。

ナビゲーション表示



1. 機体

2. 機体の水平速度ベクトル

機体が表示する白線は、機体の飛行方向と速度を示しています。

3. 機体の向き

コンパスの北を 0 度として、機体の現在の向きを表示します。

4. ホームポイントと送信機の向き

- 機体に対するホームポイント（黄色の H）と送信機（青色の点）の位置を表示します。
- 送信機とホームポイントが近い場合は、ホームポイントのみが表示されます。
- 送信機のドットには向きを示す矢印が付いています。飛行中、信号が弱い場合は、矢印が機体の方を向くように送信機の向きを調整してください。

5. ホームポイントの距離

ホームポイントと機体間の水平距離を表示します。

6. ピンポイント情報

ピンポイントが有効になっている場合、ピンポイントの名称と機体からピンポイントまでの水平距離が表示されます。

7. ウェイポイント情報

飛行経路中、ウェイポイントの名称、機体からウェイポイントまでの水平距離、飛行経路の上昇または下降軌道を表示します。

8. RNG 目標地点情報

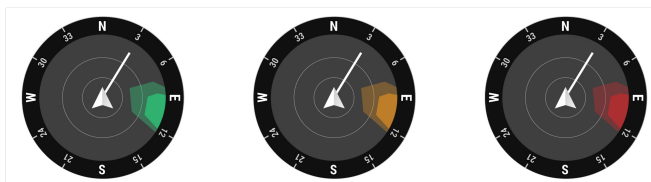
RNG レーザー距離計が有効になっている場合に、機体から目標地点までの水平距離を表示します。

9. 垂直障害物検知情報

障害物が垂直方向で検知されると、障害物バーのアイコンが表示されます。機体が警告距離に到達すると、アイコンが赤色とオレンジ色に点灯し、送信機から長いビープ音が鳴ります。機体が障害物の制動距離に到達すると、アイコンが赤色に光り、送信機から短いビープ音が鳴ります。DJI Pilot 2 で、障害物の制動距離と警告距離の両方を設定できます。設定するには、アプリのプロンプトの指示に従ってください。3 秒後の機体の位置を白線で表示します。垂直速度が速いほど、白線が長くなります。

水平障害物検知情報

明るいエリアは機体の障害物検知エリアで、暗いエリアは死角になります。飛行中は、機体の速度ベクトル線が障害物検知の死角に入り込まないようにしてください。



- 障害物が検知された場合、警告距離外にあるときは緑色の枠で表示されます。障害物が警告距離に達すると、フレームがオレンジ色に変わります。障害物が障害物制動距離に達すると、フレームが赤色に変わります。

- 障害物検知が無効になっている場合、OFF と表示されます。障害物検知が有効になっている場合、ビジョンシステムは動作していませんが、赤外線検知システムは利用可能で、TOF が表示されます。障害物検知が有効で、ビジョンシステムと赤外線検知システムが利用できない場合、NA と表示されます。

10. 風速および風向

風向は機体と関連しています。

11. 機体の水平速度

12. ジンバルのチルト

13. 機体の垂直速度

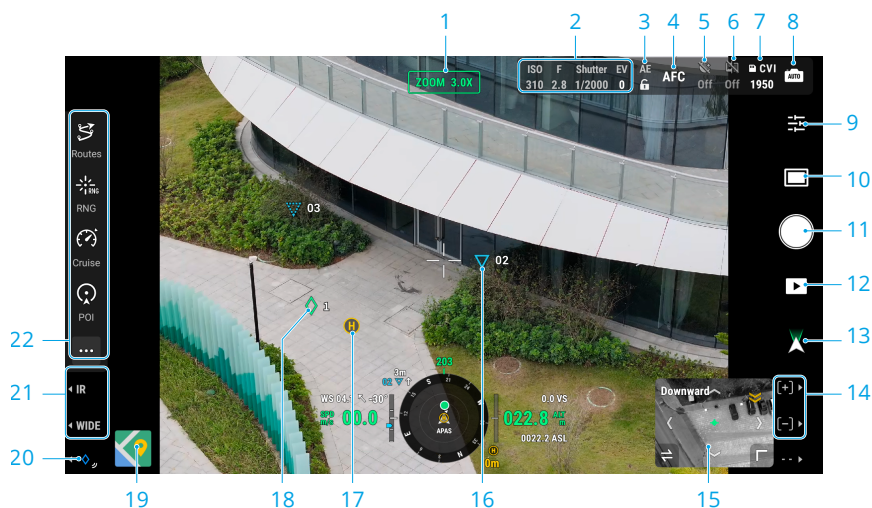
14. 相対高度 (ALT)

離陸地点と相対的な機体の高度を表示します。

15. 高度 (ASL)

ズームカメラビュー

以下の図は、ズームカメラをメインビューとして使用しています。



1. カメラタイプ

2. カメラパラメーター

3. オート露出 (AE) ロック

4. フォーカスモード

5. 夜間撮影モード
6. 電子ヘイズ除去
7. ストレージ情報
8. カメラモード
9. カメラ設定
10. 写真／動画モード
11. シャッター／録画ボタン
12. 再生
13. ジンバルモード
14. 送信機の R1/R2 ボタンを押すと、カメラズームを制御できます。
15. 視覚アシスト
16. ウェイポイント

飛行タスク中、機体が通過しようとしている 2 つのウェイポイントがカメラビューに映し出されます。

17. ホームポイント
18. ピンポイント
19. マップビュー
20. ピンポイント機能

送信機の L3 ボタンを押して、画面の中央にピンポイントを追加します。L3 ボタンを長押しすると、ピンポイント設定パネルが展開されます。

21. 送信機の L1/L2 ボタンを押すと、カメラレンズを切り替えることができます。
22. カスタム機能バー

…をタップすると、より多くの機能にアクセスでき、カスタムパネルにも対応しています。

広角カメラビュー

このセクションでは、主にズームカメラとの違いについて説明します。詳しくは、[ズームカメラビュー](#)のセクションを参照してください。

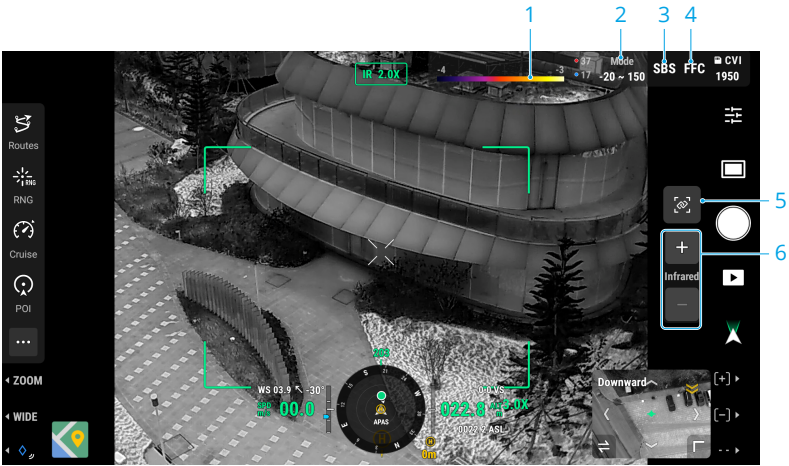


1. ズームフレーム

メインビューとして広角カメラに切り替えると、ズームフレームには視野とカメラズーム率が表示されます。

サーマルカメラビュー

このセクションでは、主にズームカメラとの違いについて説明します。詳しくは、[ズームカメラビュー](#)のセクションを参照してください。



1. パレット

現在のビューでの最高温度測定値と最低温度測定値を表示します。タップして様々な赤外線温度測定パレットから選択するか、等温線で温度測定間隔を設定できるようにします。測定エリアが現在のビューの最高温度測定値または最低温度測定値を超える場合、この設定は有効になりません。

2. 利得モード

3. SBS

赤外線画面は、デフォルトで単一の赤外線ビューとして設定されています。タップすると、Side-by-side (SBS : 2 画面並列) を有効または無効にできます。有効にすると、サーマルカメラとズームカメラの両方で撮影された映像を並べて表示できます。

4. FFC

タップして FFC キャリブレーションを開始します。FFC キャリブレーションは、サーマルカメラの機能で、温度変化を簡単に観測できるように画質を最適化します。

5. リンクズーム

タップしてサーマルカメラのレンズをリンクし、カメラをズームして拡大します。サーマルカメラビューで 2 画面ボタンを有効にすると、リンクされたズーム効果を表示できます。

6. サーマルカメラズーム

-
-  • 画面をタップするか、エリアを選択して、スポット温度測定またはエリア温度測定を実行します。
-

レーザー距離測定



1. タップして RNG を有効化します。
2. レンズ中央の十字線が赤色になると、レーザー距離計が目標を捉え、目標の高度と、目標と機体間の距離を測定していることを示します。目標の緯度と経度は、ピンポイントが目標の上に作成されると取得できます。
3. 目標と機体との直線距離。
4. 目標の高度。
5. 目標の緯度と経度。
6. 目標と機体との水平距離。

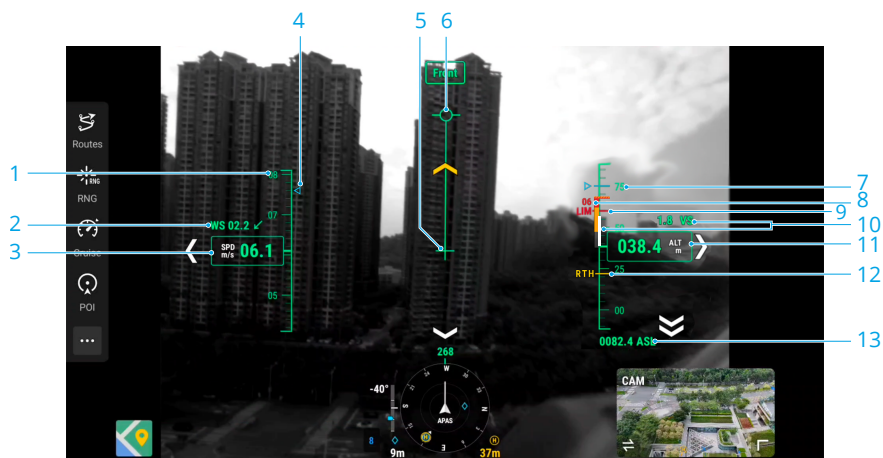
-
- RNG の測位は、GNSS 測位精度、ジンバル姿勢精度などの要因で制限されます。GNSS 位置、水平距離、ナビゲーション表示、AR プロジェクションは、あくまで参考用です。
 - クロスヘア（十字線）の形状はカメラのレンズによって異なります。
-

プライマリー フライト ディスプレイ

視覚アシストビューを拡大すると、フライトアシスト機能が画面に表示されます。

プライマリー フライト ディスプレイ (PFD) が、より直感的で簡単な飛行を可能にし、機体周辺の障害物をユーザーが視認して回避することができ、必要に応じて停止や飛行軌跡を調整することもできます。

メインビューから FPV カメラやジンバルカメラ（ズームカメラ／広角カメラ／サーマルカメラ）を表示している場合、プライマリー フライト ディスプレイの表示が異なる場合があります。



1. 速度ホイール

2. 風速および風向

風向は機体と関連しています。

3. 機体の水平速度

4. 飛行タスク中の飛行経路のプリセット速度。

5. 機体の進行方向インジケーター

6. 飛行経路ベクトル

機体が飛行する先の位置。

7. 飛行タスク中の飛行経路のプリセット高度。

8. 垂直障害物インジケーター

機体の上方や下方に障害物がある場合、障害物検知ディスプレイを参照したり、速度バーと障害物の高さを比較することで、衝突が迫っているかどうかを判断し、事故を回避することができます。

9. 高度制限 (LIM)

10. 機体の垂直速度

3 秒後の機体の位置を白線で表示します。垂直速度が速いほど、白線が長くなります。

11. 相対高度 (ALT)

離陸地点と相対的な機体の高度。

12. Return-to-Home（ホーム帰還）高度 (RTH)

13. 高度 (ASL)

7 付録

7.1 仕様

仕様については、以下のウェブサイトを参照してください。

<https://enterprise.dji.com/matrice-4-series/specs>

7.2 ファームウェア更新

DJI Pilot 2 の使用

機体と送信機のファームウェア更新

1. 機体と送信機の電源を入れます。機体が送信機にリンクされていること、送信機がインターネットに接続されていることを確認してください。
2. DJI Pilot 2 を実行します。新しいファームウェアが利用可能になると、プロンプトがホーム画面に表示されます。タップすると、ファームウェア更新ビューに移動します。
3. [全て更新] をタップすると、DJI Pilot 2 でファームウェアをダウンロードし、機体と送信機を更新します。
4. ファームウェア更新が完了すると、機体と送信機の電源が自動的に再起動されます。

 • 機体に搭載されているデバイスのファームウェアが最新版に更新されます。

オフラインでのファームウェア更新

オフライン用のファームウェアパッケージは、DJI 公式サイトから microSD カードや U ディスクなどの外部ストレージ機器にダウンロードできます。DJI Pilot 2 を実行し、[HMS] をタップしてから、**ファームウェア更新 > オフライン更新** をタップして、外部ストレージ機器から送信機、機体、またはペイロードのファームウェアパッケージを選択し、[全て更新] をタップして更新します。

DJI Assistant 2 (Enterprise シリーズ) の使用

機体と送信機のファームウェア更新

1. DJI Assistant 2 は複数の DJI 機器を同時に更新できないため、パソコンに機体または送信機を 1 台ずつ接続してください。

2. パソコンがインターネットに接続されており、DJI 機器の電源が入っていることを確認してください。
3. DJI Assistant 2 を起動し、DJI アカウントでログインします。
4. メインインターフェイスの左側にある **[ファームウェア更新]** をタップします。
5. ファームウェア バージョンを選択し、クリックして更新します。ファームウェアが自動的にダウンロードされ、更新されます。
6. 「更新に成功しました」というプロンプトが表示されると、更新が完了し、DJI 機器が自動的に再起動します。

お知らせ

- ⚠ • ファームウェアを更新する前に、機体と送信機が完全に充電されていることを確認してください。
- 更新処理中は、アクセサリーを取り外したり、デバイスの電源を切ったりしないでください。
 - バッテリーファームウェアは、機体のファームウェアに含まれています。必ずすべてのバッテリーを更新してください。
 - 更新処理中、ジンバルがゆっくりと動作し、機体ステータスインジケーターが点滅して機体が再起動しますが、これは正常な動作です。更新が完了するまで、しばらくお待ちください。
 - ファームウェア更新、システムキャリブレーションやパラメーター設定を行っているときには、必ず機体に人や動物が近づかないようにしてください。
 - 安全確保のため、最新のファームウェアバージョンを必ず使用するようにしてください。
 - ファームウェア更新の完了後、送信機と機体の接続を解除できます。必要に応じて、デバイスを再接続します。
-

7.3 フライトレコーダー

飛行データは、機体の内部ストレージに自動的に記録されます。機体を USB ポートでパソコンと接続すれば、DJI Assistant 2 または DJI Pilot 2 アプリでこのデータをエクスポートすることができます。

7.4 強化伝送

強化伝送は、OcuSync 動画伝送技術を 4G ネットワークに統合します。OcuSync 動画伝送が遮断されている場合、干渉が発生している場合、または長距離で使用されている場合、4G 接続によって、機体の制御を維持することができます。

取り付け要件は、以下のとおりです。

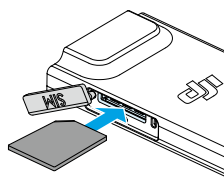
- 機体には DJI セルラードングル 2 を取り付ける必要があります、事前にナノ SIM カードをドングルに取り付けておく必要があります。DJI セルラードングル 2 とナノ SIM カードは別売りであり、両方を別途購入する必要があります。
- 送信機に DJI セルラードングル 2 (別売り) を装着するか、Wi-Fi ホットスポットに接続することで、強化伝送を使用することができます。

強化伝送は、データを消費します。伝送が完全に 4G ネットワークに切り替わった場合、30 分の飛行で機体と送信機がそれぞれ約 1 GB のデータを消費します。この値はあくまで参考用です。実際のデータ使用量を参照してください。

-
- ⚠ • 強化伝送は一部の国・地域でのみご利用いただけます。
- DJI セルラードングル 2 および関連サービスは、一部の国・地域でのみご利用いただけます。現地の法令と DJI セルラードングル 2 のサービス規約を遵守してください。
-

ナノ SIM カードの取り付け

ドングルの SIM カードスロットカバーを開き、図と同じ方向でナノ SIM カードをスロットに挿入して、カバーを閉じます。



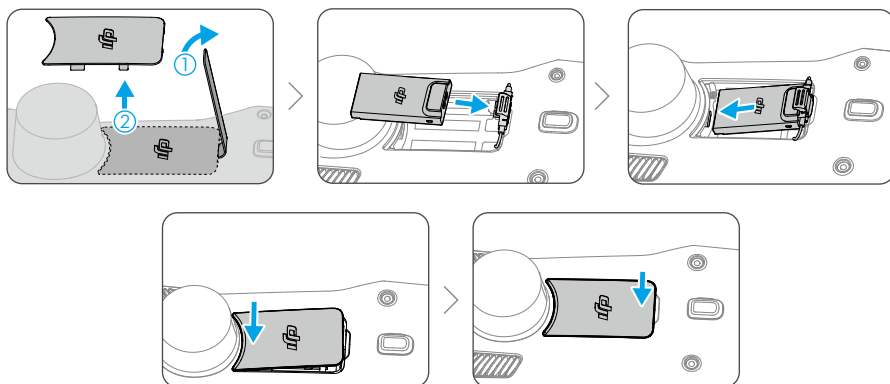
-
- ⚠ • 4G ネットワークに対応したナノ SIM カードを、現地の携帯電話会社から公式ルートで購入することを強くお勧めします。
- IoT の SIM カードを使用しないでください。IoT の SIM カードを使用した場合、動画伝送の品質が著しく損なわれます。
 - 仮想移動体通信事業者が提供する SIM カードは使用しないでください。インターネットに接続できなくなる可能性があります。

- SIM カードを自分で切断しないでください。自分で切断すると、SIM カードが損傷したり、端や角が粗くなり、SIM カードを正しく挿入または取り外しできなくなる可能性があります。
- SIM カードにパスワード（PIN コード）が設定されている場合は、必ず SIM カードを携帯電話に挿入し、PIN コードの設定を解除してください。PIN コードの設定を解除しないと、インターネットに接続できなくなります。

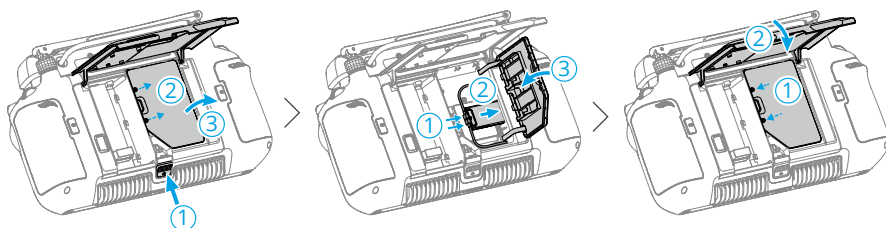
- 💡 • カバーを開け、ナノ SIM カードを押して取り出します。

DJI セルラードングル 2 の取り付け

1. 機体に DJI セルラードングル 2 を取り付けます。

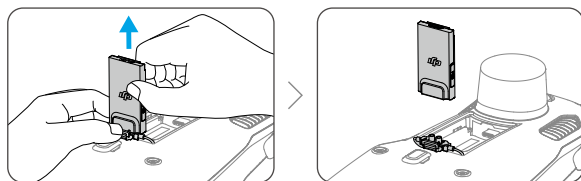


2. 送信機に DJI セルラードングル 2 を取り付けます。



3. システムデスクトップの右上にあるアイコンを確認します。4G のロゴが表示された場合は、強化伝送が利用可能であることを示します。

- ⚠️ • 必要であれば、図のように DJI セルラードングル 2 を機体からゆっくりと外します。アンテナを無理に引っ張らないでください。無理に引っ張ると、アンテナが破損する恐れがあります。



強化伝送の使用

機体と送信機が 4G ネットワークで接続された後、アプリで強化伝送を有効にすることができます。

- ・ カメラビューに移動し、動画伝送信号アイコンをタップして、ポップアップボックスで強化伝送を有効または無効にします。
- ・ カメラビューに移動して、***>HD をタップし、強化伝送を有効または無効にします。

⚠️ ・ 強化伝送を有効にした後は、動画伝送の信号強度に注意を払ってください。慎重に飛行してください。動画伝送信号アイコンをタップすると、現在の OcuSync の動画伝送と 4G 動画伝送の信号強度がポップアップボックスに表示されます。

セキュリティ戦略

安全な飛行を考慮し、強化伝送は OcuSync 動画伝送が有効な場合にのみ有効にすることができます。飛行中に OcuSync リンクが切断された場合、強化伝送を無効にすることはできません。

4G のみの伝送シナリオでは、送信機または DJI Pilot 2 を再起動すると、フェールセーフ RTH になります。OcuSync リンクが再接続される前に、4G 動画伝送を復元することはできません。

4G のみの伝送シナリオでは、機体の着陸後に離陸カウントダウンが開始されます。カウントダウンが終了する前に機体が離陸しなかった場合、OcuSync リンクが復元するまで離陸は許可されません。

送信機使用上の注意

DJI セルラードングル 2 経由で 4G ネットワークを使用する場合は、DJI セルラードングル 2 を正しく取り付け、干渉を低減するために、強化伝送を使用中は送信機の Wi-Fi をオフにしてください。

送信機をモバイルデバイスの Wi-Fi ホットスポットに接続して 4G ネットワークを使用する場合は、より良い動画伝送を体験するために、モバイルデバイスホットスポットの周波数帯域を 2.4GHz に設定し、ネットワークモードを 4G に設定してください。同じモバイルデバイスで

着信電話に応答したり、複数のデバイスを同じホットスポットに接続したりすることはお勧めしません。

4G ネットワーク要件

4G ネットワークの伝送速度は、現在位置における機体の 4G 信号強度と、対応する基地局のネットワーク混雑度によって決定されます。実際の伝送エクスペリエンスは、ローカル 4G ネットワークの信号状態と密接に関係しています。4G ネットワークの信号状態には、機体と送信機の両側が含まれ、その速度はさまざまです。機体または送信機のネットワーク信号が弱い、信号がない、またはビジー状態の場合、4G 伝送の体感速度が低下し、映像伝送のフリーズ、コントロールの応答遅れ、動画伝送の喪失、またはコントロールの喪失につながる可能性があります。

そのため、強化伝送を使用する場合は、次の点に注意してください。

1. より良い伝送エクスペリエンスを確保するために、アプリに表示される 4G ネットワーク信号がフルに近い場所で送信機と機体を使用するようにしてください。
2. OcuSync 信号が切断された場合、機体が 4G ネットワークに完全に依存しているときは、動画伝送に遅れや途切れが発生する可能性があります。慎重に飛行してください。
3. OcuSync 動画伝送信号が不良、または切断されている場合、飛行中に適切な高度を維持するようにしてください。開けた場所では、良好な 4G 信号を確保するために、飛行高度を 120 メートル以下に保つようにしてください。
4. 高層ビルが立ち並ぶ都市部での飛行では、適切な RTH 高度（最も高いビルよりも高い高度）を設定してください。
5. アプリに、4G 動画伝送信号が弱いと表示された場合は、慎重に飛行してください。

お問い合わせ



連絡先

DJI サポート



The terms HDMI, HDMI High-Definition Multimedia Interface, HDMI trade dress and the HDMI Logos are trademarks or registered trademarks of HDMI Licensing Administrator, Inc.

内容は予告なく変更する場合があります。
最新版は下記よりダウンロードしてください



<https://enterprise.dji.com/matrice-4-series/downloads>

本書についてご質問がある場合は、以下にメッセージを送信して DJI までお問い合わせください。**DocSupport@dji.com**

DJI および MATRICE は DJI の商標です。
Copyright © 2025 DJI All Rights Reserved.